

# 2009年3月期 決算説明会

---



八千代工業株式会社

証券コード 7298  
ホームページ <http://www.yachiyo-ind.co.jp/>  
問い合わせ先 経理部 川瀬 和昭  
e-mail: kazuaki\_kawase@yachiyo-ind.co.jp  
TEL 04-2955-1280

2009.5.8

# 本日のご説明内容

---

## 1. 決算説明

経理部長

北村 哲也

---

## 2. 第10次中期計画の進捗状況について

代表取締役社長

白石 基厚

---

## 3. 質疑

---

# 1. 決算説明

---

2009年3月期 連結決算

2010年3月期 連結業績見通し

経理部長 北村 哲也

---

# 2009年3月期 連結決算

第4四半期(3ヶ月間) 09/01~09/03(国内) 08/10~08/12(海外)	2008年4Q (実績)	2009年4Q (実績)	前年同期比 (増減率)
<b>売上高</b>	<b>763億円</b>	<b>653億円</b>	-110億円 (-14.3%)
<b>完成車事業</b>	<b>268億円</b>	<b>318億円</b>	+50億円 (+18.7%)
<b>部品事業</b>	<b>495億円</b>	<b>335億円</b>	-160億円 (-32.3%)
営業利益 (対売上高比率)	<b>16.1億円</b> (2.1%)	-0.4億円 (-0.1%)	-16.5億円 (-102.4%)
経常利益 (対売上高比率)	<b>15.1億円</b> (2.0%)	-1.4億円 (-0.2%)	-16.5億円 (-109.4%)
四半期純利益 (対売上高比率)	<b>4.8億円</b> (0.6%)	-4.6億円 (-0.7%)	-9.4億円 (-196.0%)

# 2009年3月期 第4四半期(12ヶ月間) 連結業績

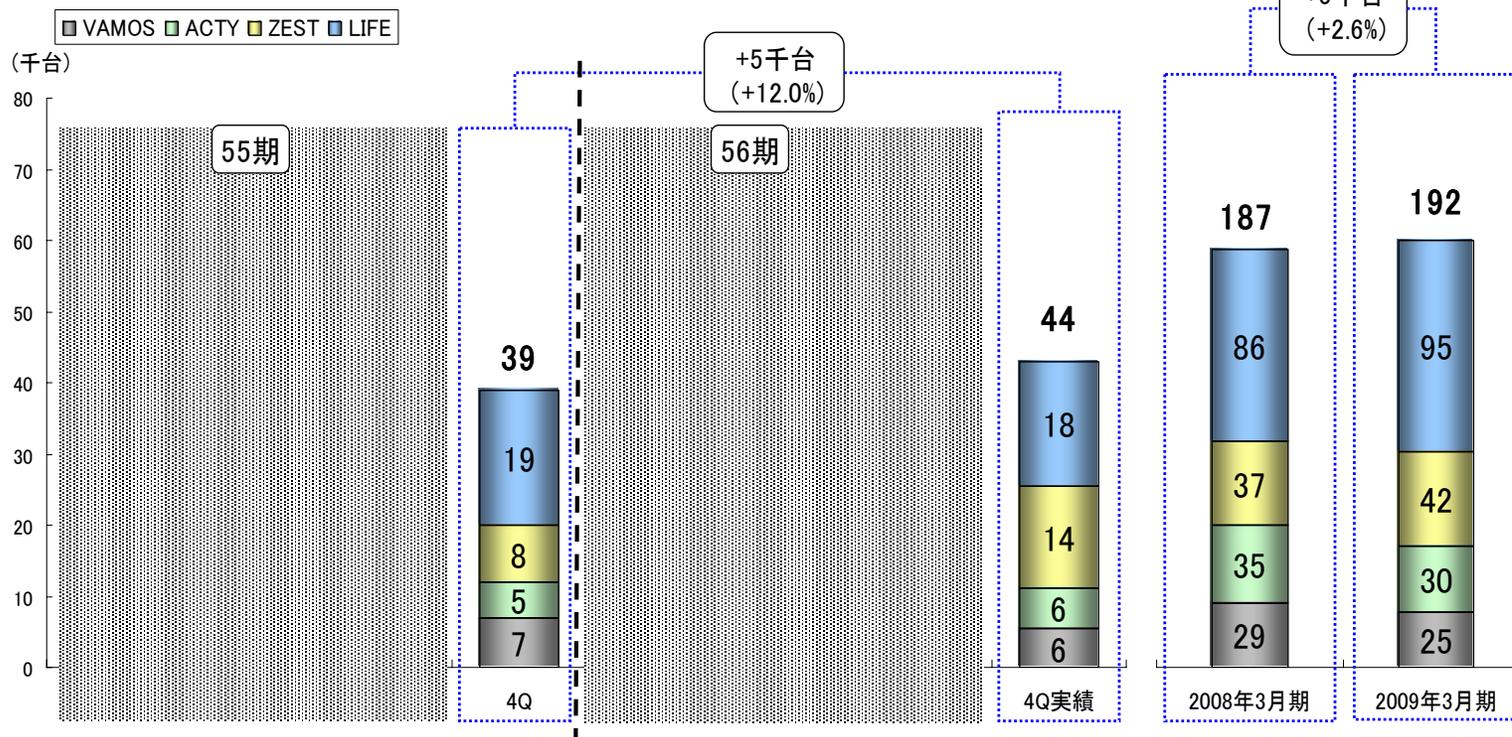
第4四半期(12ヶ月間) 08/04~09/03(国内) 08/01~08/12(海外)	2008年3月期 (実績)		2009年3月期 (実績)		前年度比 (増減率)	1/30公表 通期 見直しからの増減額
	上期	通期	上期	通期		
売上高	3,198億円		3,093億円		-105億円 (-3.3%)	+33億円
完成車事業	1,229億円		1,302億円		+73億円 (+5.9%)	+31億円
部品事業	1,969億円		1,791億円		-178億円 (-9.0%)	+2億円
営業利益 (対売上高比率)	88.0億円 (2.8%)		60.5億円 (2.0%)		-27.5億円 (-31.2%)	-0.5億円 (-0.8%)
経常利益 (対売上高比率)	81.2億円 (2.5%)		56.2億円 (1.8%)		-25.0億円 (-30.8%)	-0.1億円 (-0.2%)
当期純利益 (対売上高比率)	73.6億円 (2.3%)		3.9億円 (0.1%)		-69.7億円 (-94.7%)	-1.1億円 (-21.7%)
HM株式売却前(前期) UYT減損前純利益 (対売上高比率)	39.2億円 (1.2%)		28.6億円 (0.9%)		-10.6億円 (-27.0%)	-1.1億円 (-3.7%)
為替レート (USドル)	上期 119円 下期 109円	通期 114円	上期 106円 下期 95円	通期 101円	13円 円高	

# 第4四半期 完成車事業概況(連結ベース)

	2008年4Q (実績)	2009年4Q (実績)	前年同期比 (増減率)
生産台数合計	39千台	44千台	+5千台 (+12.0%)
LIFE	19千台	18千台	-1千台 (-1.8%)
ZEST	8千台	14千台	+6千台 (+76.7%)
ACTY	5千台	6千台	+1千台 (+16.3%)
VAMOS	7千台	6千台	-1千台 (-26.2%)
売上高	268億円	318億円	+50億円 (+18.7%)

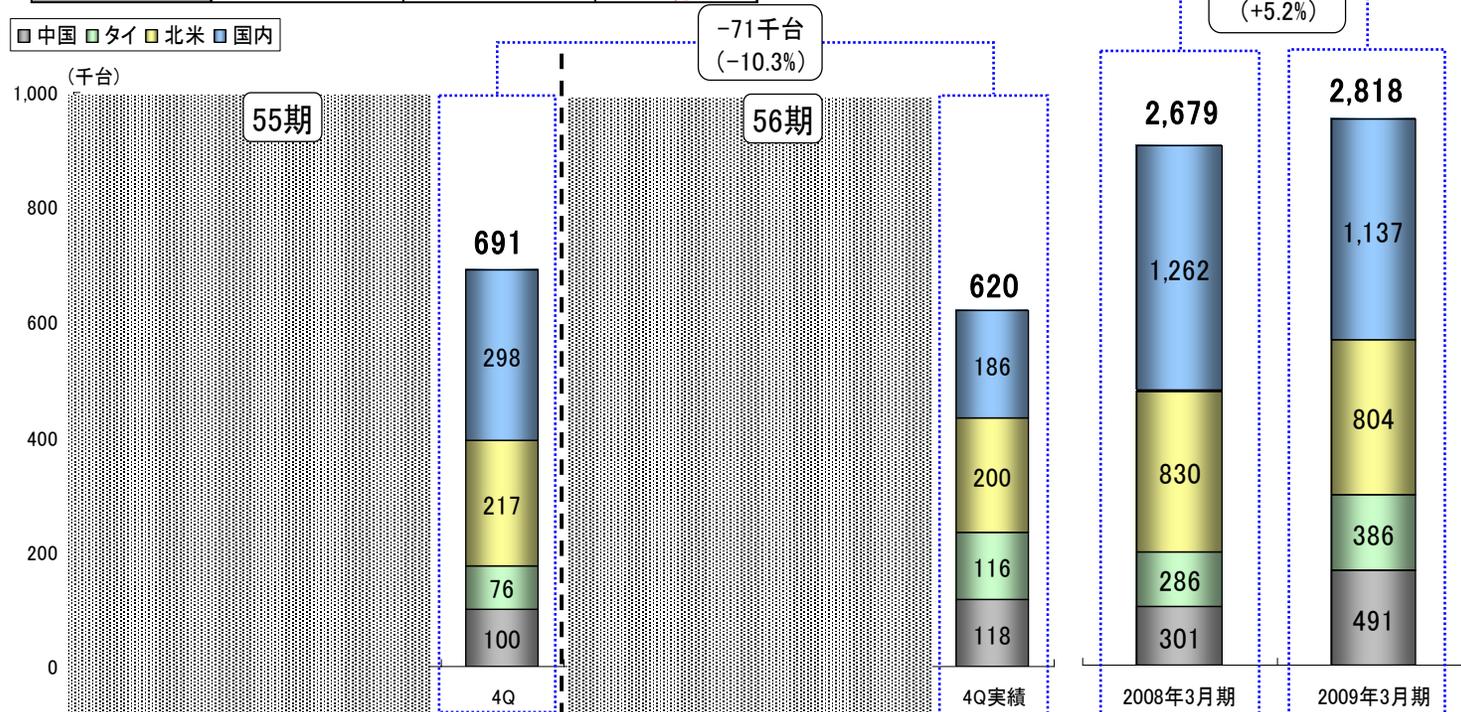
日産台数      55期4Q      56期4Q  
                  591台/日      728台/日

休買日              0日              0日



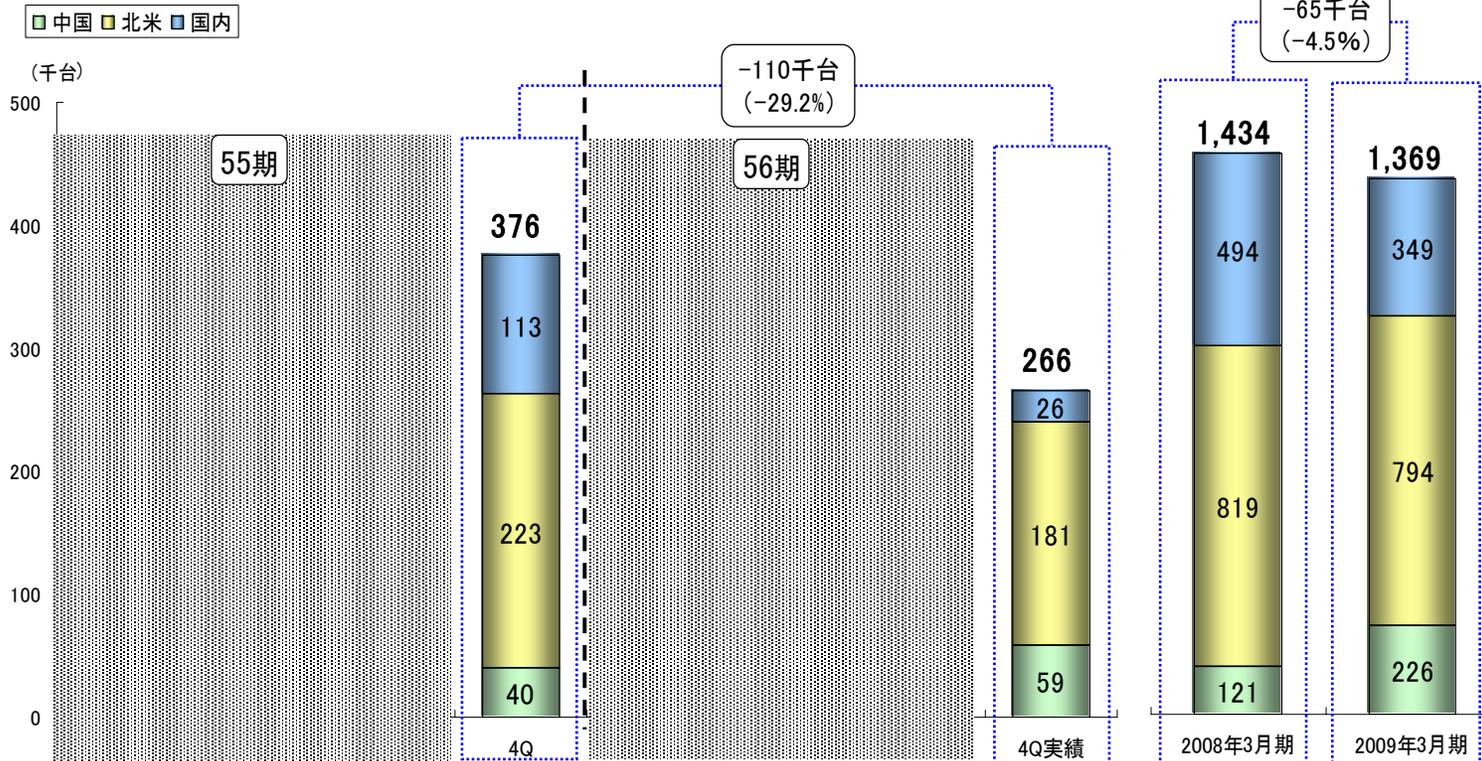
# 第4四半期 部品事業概況(タンク/連結ベース)

	2008年4Q (実績)	2009年4Q (実績)	前年同期比 (増減率)
生産台数合計	691千台	620千台	-71千台 (-10.3%)
国内	298千台	186千台	-112千台 (-37.7%)
北米	217千台	200千台	-17千台 (-7.2%)
タイ	76千台	116千台	+40千台 (+52.4%)
中国	100千台	118千台	+18千台 (+17.4%)
売上高	100億円	79億円	-21億円 (-21.2%)
内為替影響	—	-9億円	実質の売上減 -12億円



# 第4四半期 部品事業概況(サンルーフ/連結ベース)

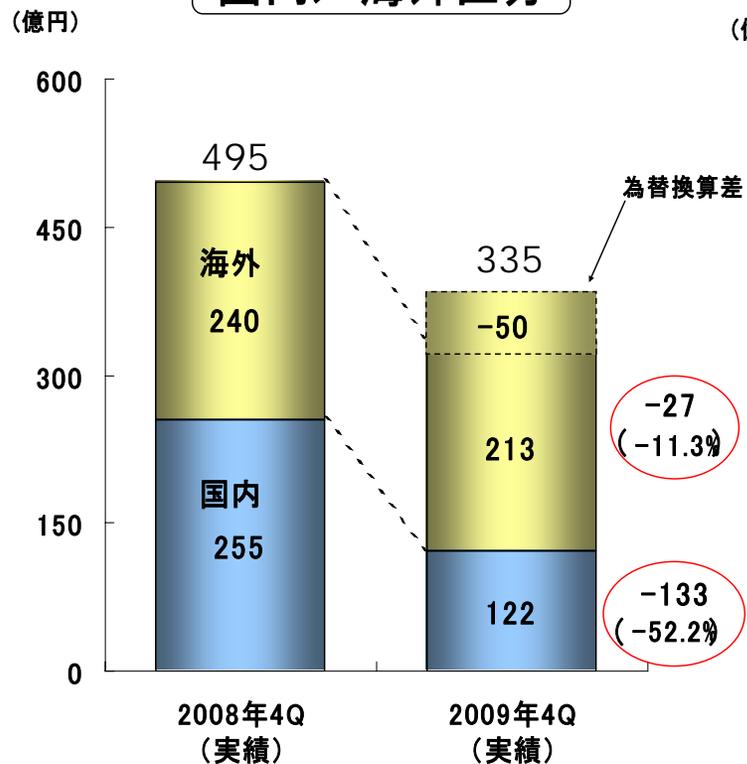
	2008年4Q (実績)	2009年4Q (実績)	前年同期比 (増減率)
生産台数合計	376千台	266千台	-110千台 (-29.2%)
国内	113千台	26千台	-87千台 (-77.2%)
北米	223千台	181千台	-42千台 (-18.5%)
中国	40千台	59千台	+19千台 (+47.1%)
売上高	82億円	50億円	-32億円 (-39.5%)
内為替影響	—	-7億円	実質の売上減 -25億円



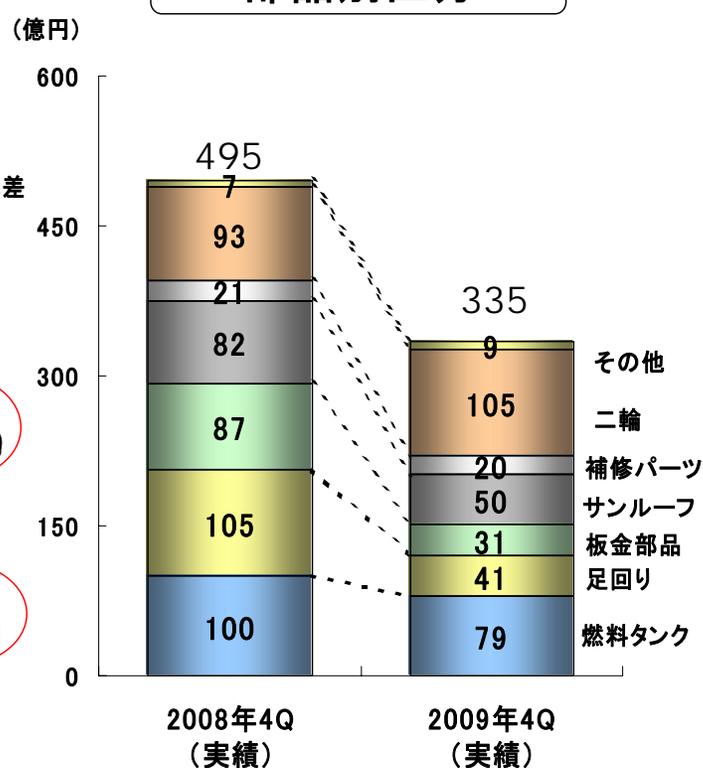
# 第4四半期(3ヶ月間) 部品事業概況

売上高	2008年4Q (実績)	2009年4Q (実績)	前年同期比 (増減率)
売上高	495億円	335億円	-160億円 (-32.3%)

国内／海外区分

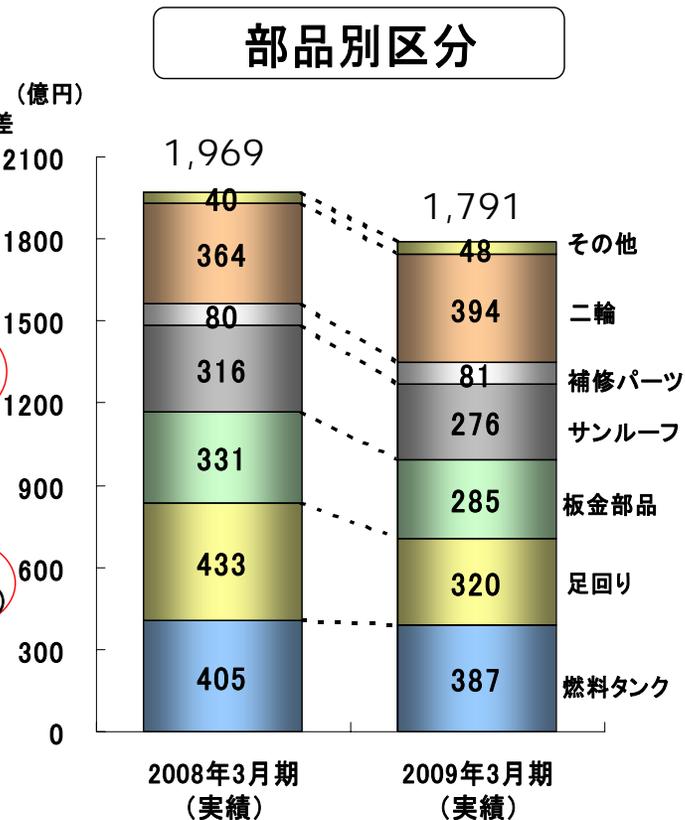
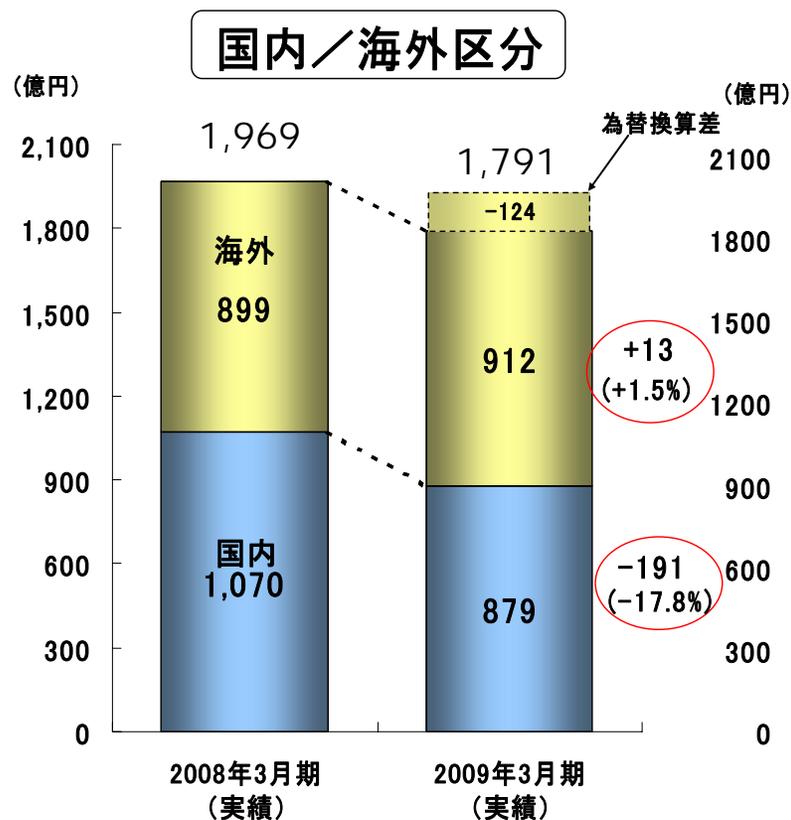


部品別区分

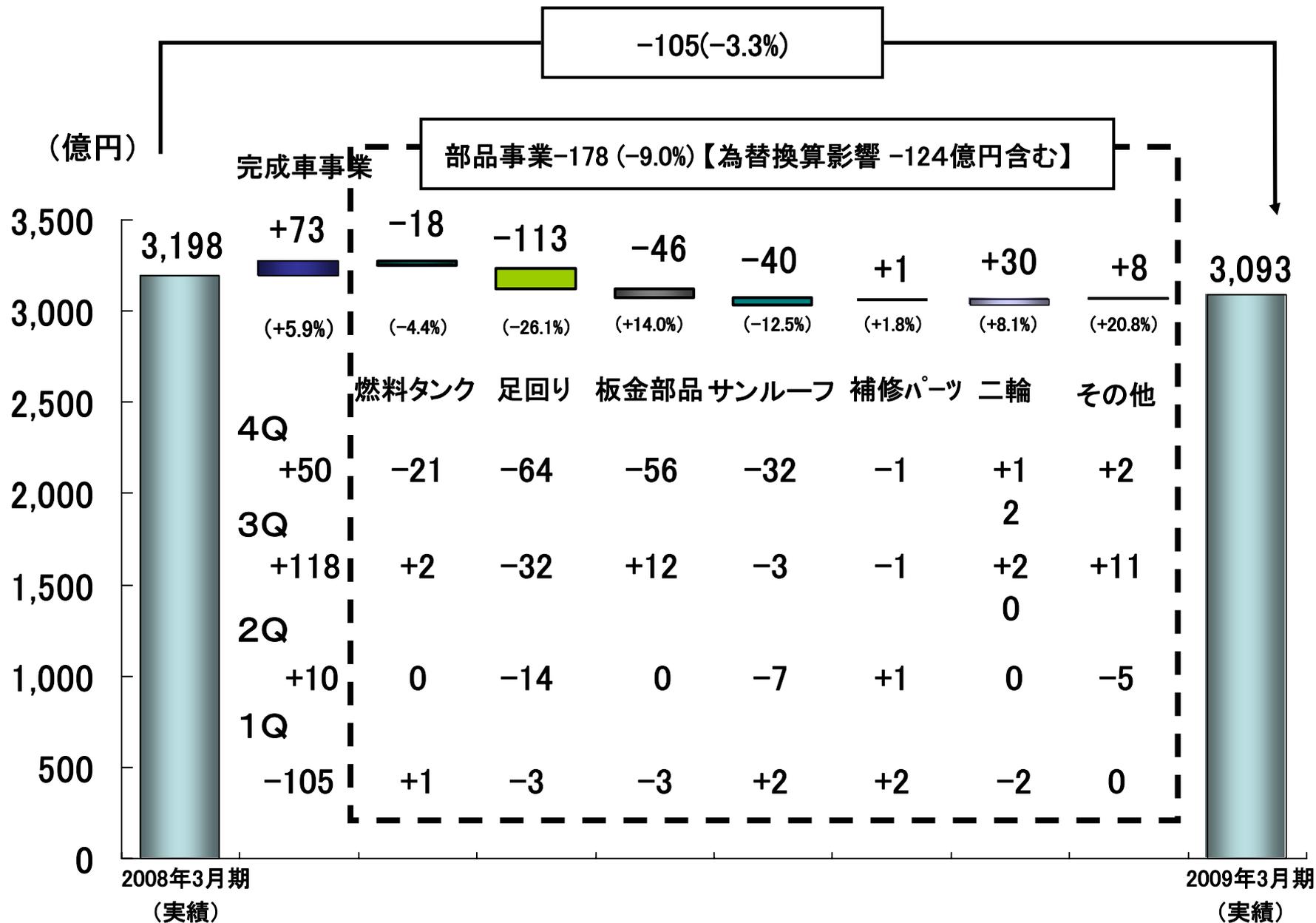


# 第4四半期(12ヶ月間) 部品事業概況

売上高	2008年3月期 (実績)	2009年3月期 (実績)	前年度比 (増減率)
売上高	1,969億円	1,791億円	-178億円 (-9.0%)

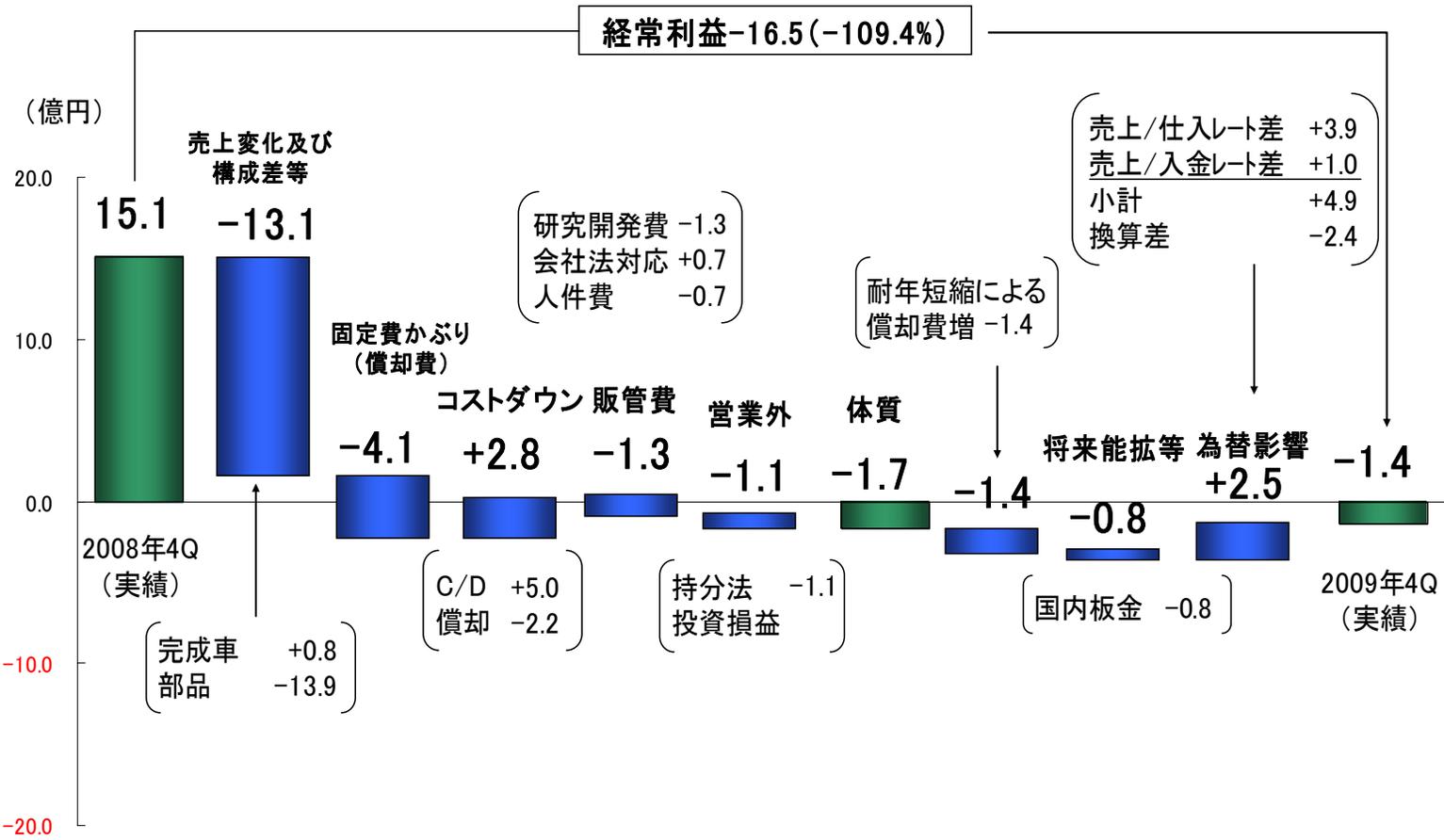


# 第4四半期(12ヶ月間)連結売上高【製品別】増減要因

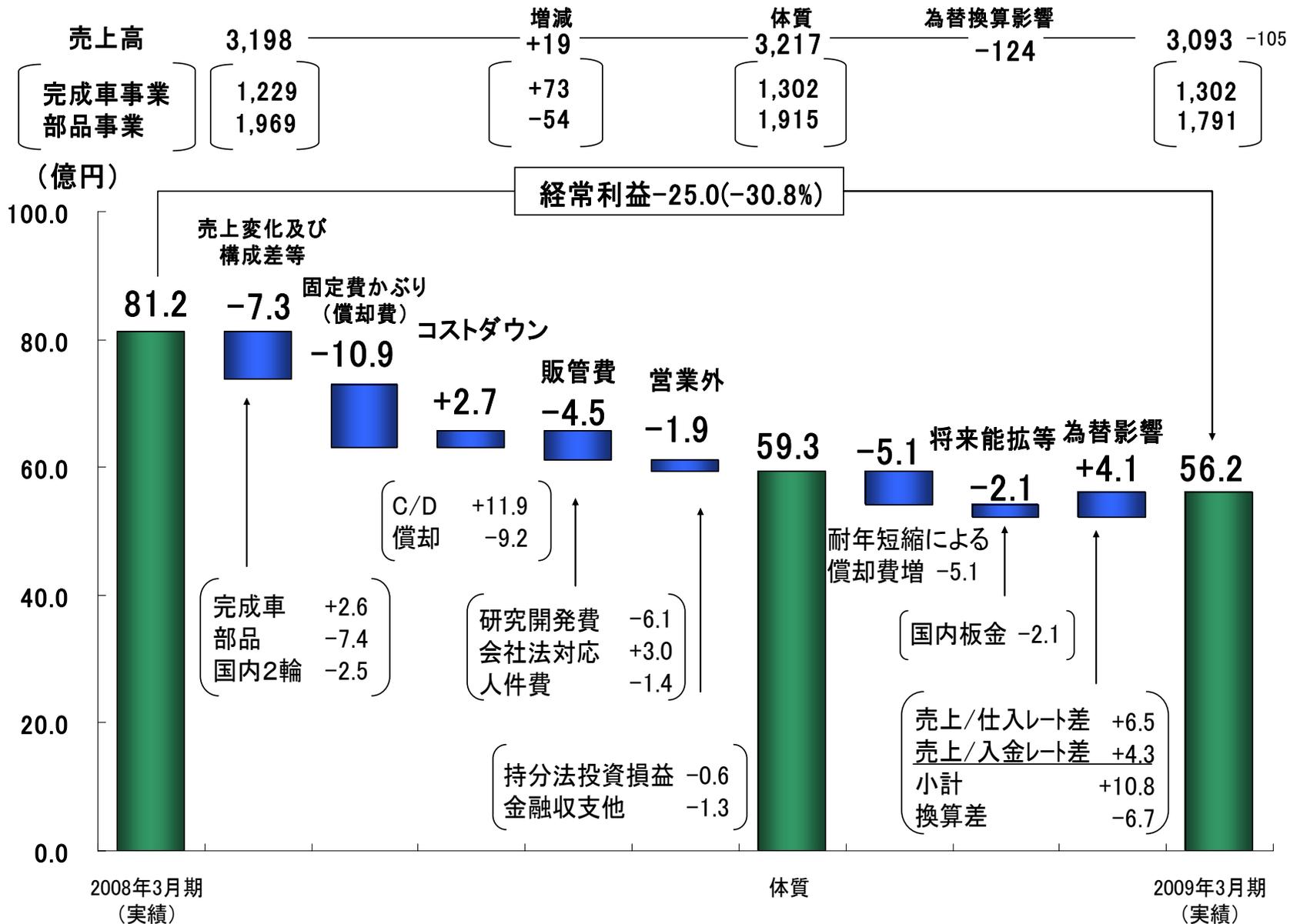


# 第4四半期(3ヶ月間) 連結経常利益増減要因(前年同期比)

売上高	763	増減 -60	体質	703	為替換算影響	653	-110
完成車事業	268	+50	318	-50	318		
部品事業	495	-110	385		335		



# 第4四半期(12ヶ月間) 連結経常利益増減要因(前年度比)



# 所在地別セグメント情報(3ヶ月間)

## 【国内】

<b>売上高</b>	<b>-92</b>
・完成車 台数増、機種構成差	+50
・部品売上減	-142
<b>営業利益</b>	<b>-17.7</b>
・売上変化及び機種構成差	-10.3
・固定費かぶり(償却費)	-3.3
・償却費増	-2.1
・研究開発費増	-1.3
・会社法対応費用	+0.7
・耐年短縮による償却費増	-1.4

(単位:億円)

## 【北米】

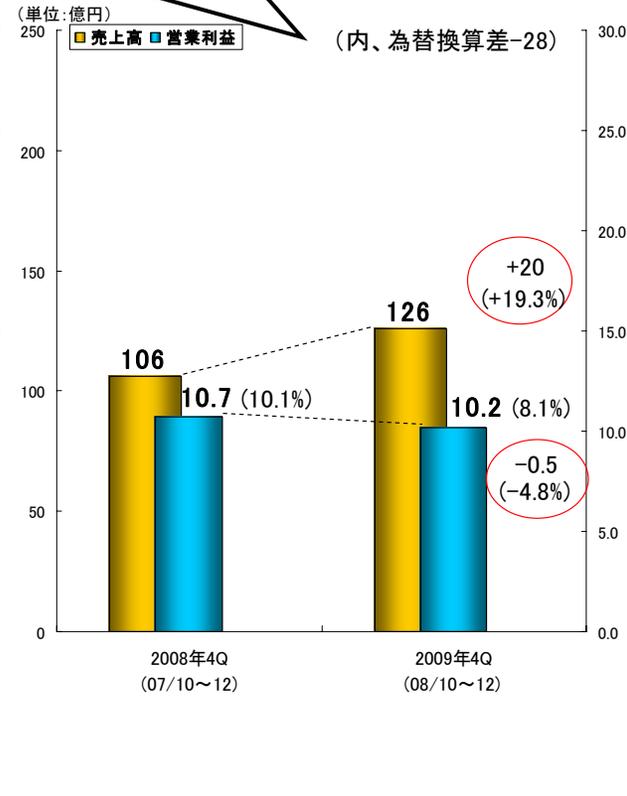
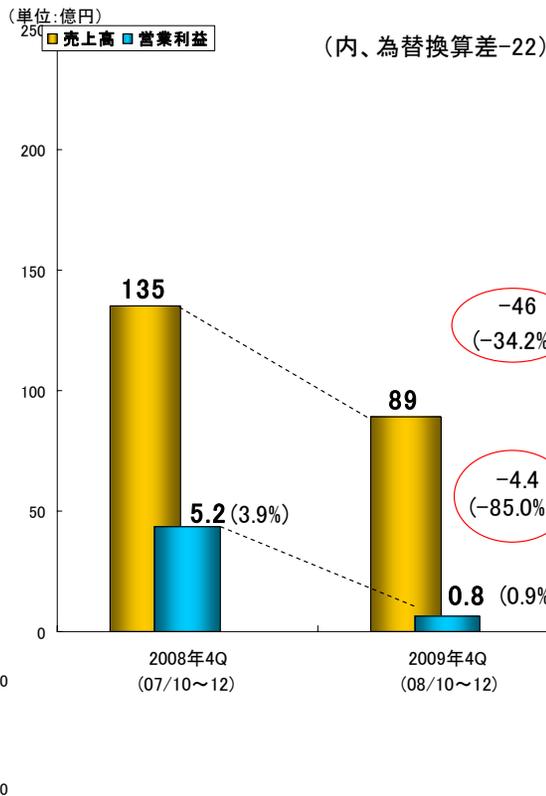
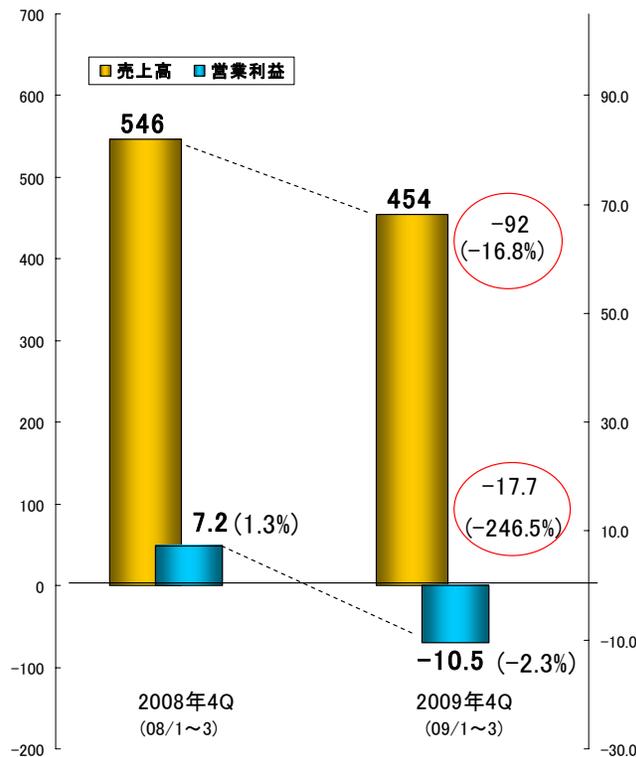
<b>売上高</b>	<b>-46</b>
・為替換算影響	-22
・板金及びサンルーフ減	-24
<b>営業利益</b>	<b>-4.4</b>
・売上変化及び機種構成差	-7.5
・固定費かぶり(償却費)	-0.4
・売上/仕入レート差	+4.0
・為替換算差	-0.9
・償却費減	+0.4

(単位:億円)

## 【アジア】

<b>売上高</b>	<b>+20</b>
・為替換算影響	-28
・2輪及びタンク並びにサンルーフ増	+48
<b>営業利益</b>	<b>-0.5</b>
・売上変化及び機種構成差	+5.0
・固定費かぶり(償却費)	-0.4
・売上/仕入レート差	-0.1
・為替換算差	-1.5
・償却費増	-0.5
・能払費用等	-3.0

(単位:億円)



# 所在地別セグメント情報(12ヶ月間)

## 【国内】

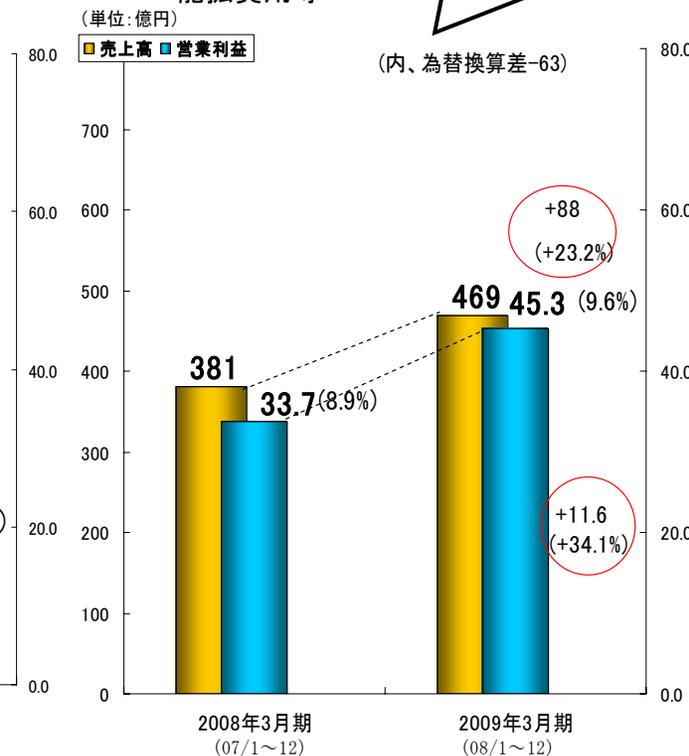
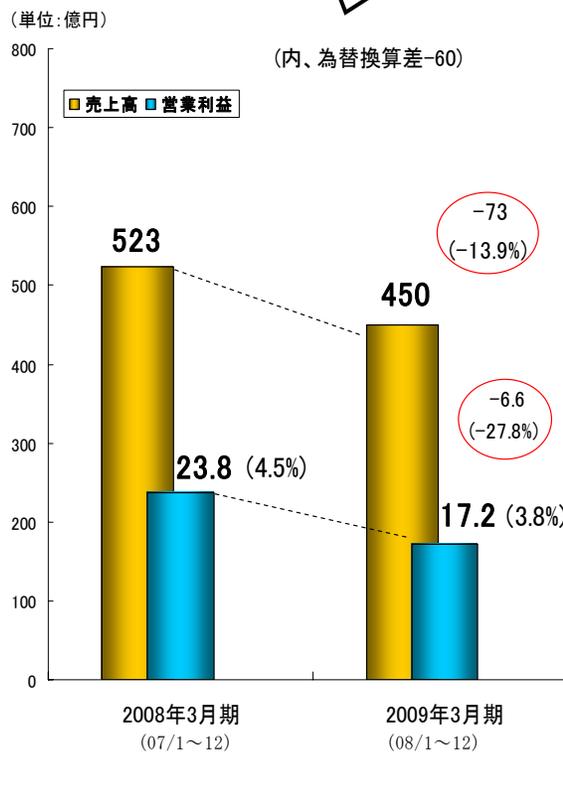
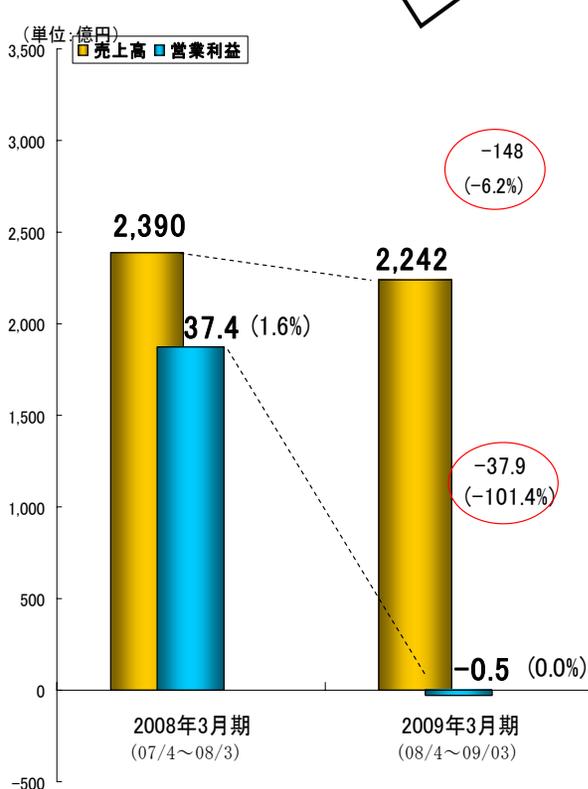
<b>売上高</b>	<b>-148</b>
・完成車、台数増、機種構成差	+73
・部品売上減	-221
<b>営業利益</b>	<b>-37.9</b>
・売上変化及び機種構成差	-15.6
・固定費かぶり(償却費)	-10.1
・償却費増	-4.0
・研究開発費増	-6.1
・会社法対応費用	+3.0
・耐年短縮による償却費増	-5.1

## 【北米】

<b>売上高</b>	<b>-73</b>
・為替換算影響	-60
・板金及びサンルーフ増	-13
<b>営業利益</b>	<b>-6.6</b>
・売上変化及び機種構成差	-10.1
・固定費かぶり(償却費)	-0.4
・売上/仕入レート差	+7.6
・為替換算差	-2.3
・償却費増	-1.4

## 【アジア】

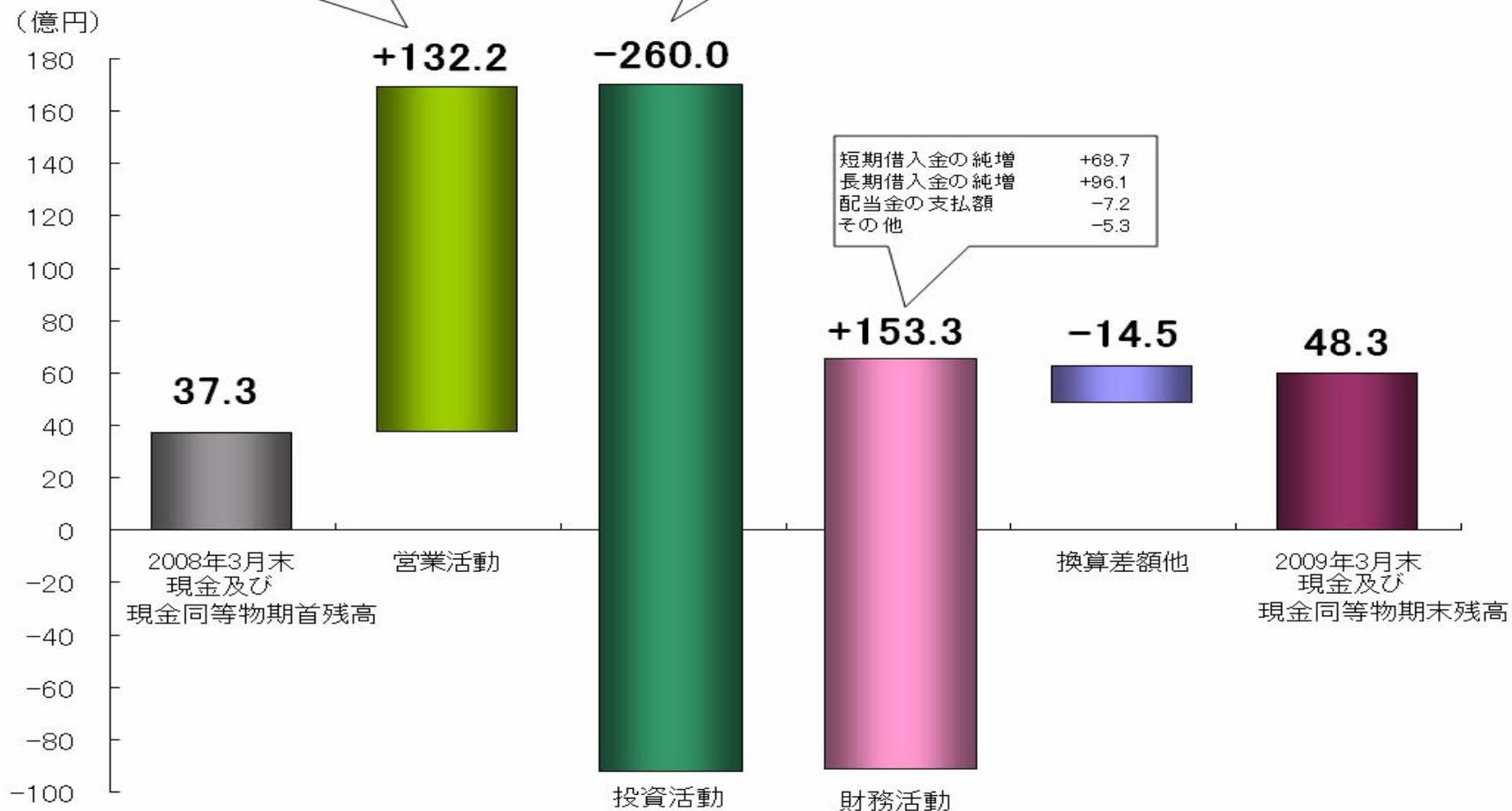
<b>売上高</b>	<b>+88</b>
・為替換算影響	-63
・タンク及びサンルーフ並びに2輪増	+151
<b>営業利益</b>	<b>+11.6</b>
・売上変化及び機種構成差	-0.4
・固定費かぶり(償却費)	-1.1
・売上/仕入レート差	-4.4
・為替換算差	-3.8
・償却費増	-3.0
・能拡費用等	



税金等調整前当期純利益	+24.7
減価償却費	+119.3
貸倒引当金の増加額	+24.0
売上債権の減少額	+47.7
仕入債務の減少額	-39.6
棚卸資産の減少額	+11.7
法人税等の支払額	-60.5
その他	+4.9

有形固定資産の取得	-269.2
その他	+9.2

短期借入金の純増	+69.7
長期借入金の純増	+96.1
配当金の支払額	-7.2
その他	-5.3

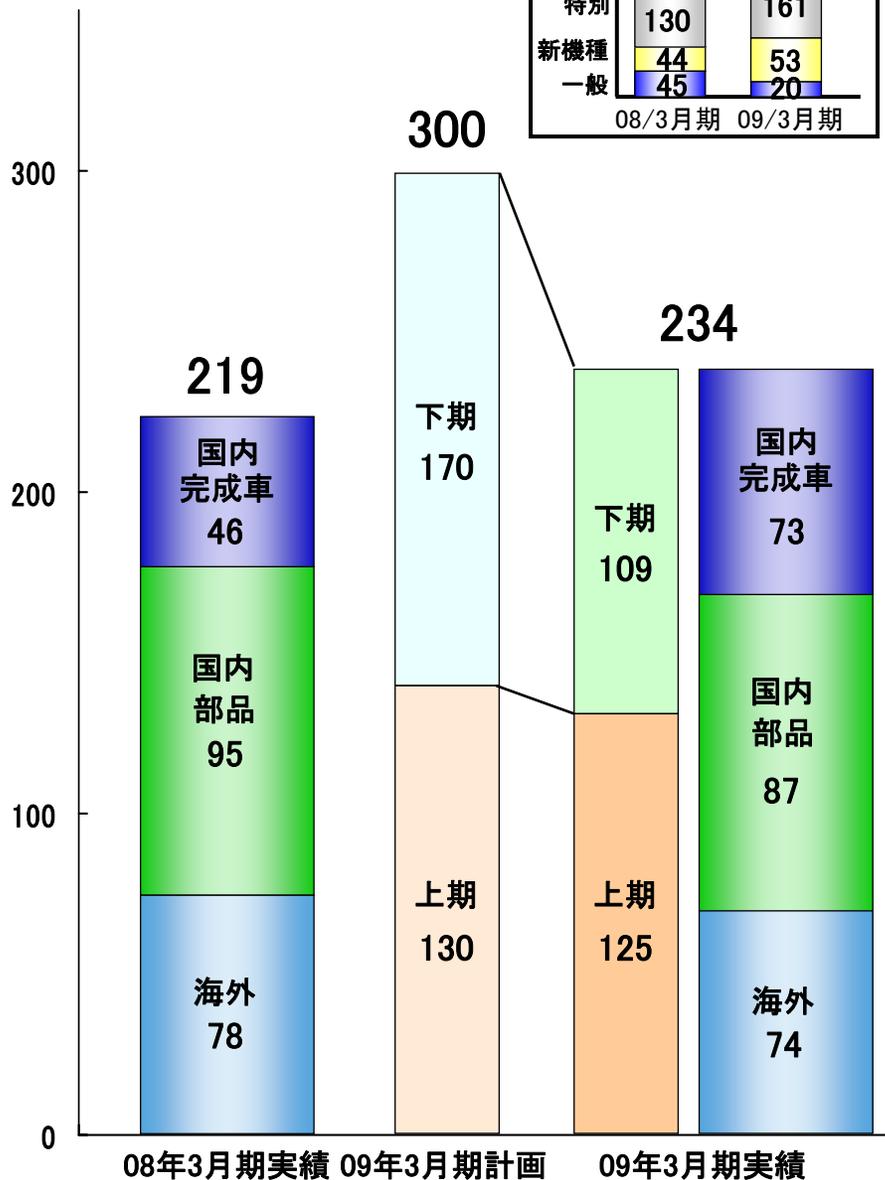


# 連結貸借対照表

	2008年3月	2009年3月	増減	コメント
総資産	1,268億円	1,201億円	-67億円	有形固定資産の増 +119億円 受取手形及び売掛金の減 -32億円 たな卸資産の減 -13億円 為替換算 -141億円
負債	764億円	788億円	+24億円	有利子負債の増 +162億円 支払手形及び買掛金 -36億円 未払法人税の減 -30億円 未払金他 -15億円 為替換算 -57億円
株主資本	434億円	431億円	-3億円	配当金 -7億円 当期純利益 +4億円
評価・換算差額等	26億円	-60億円	-86億円	為替換算調整勘定の減 -84億円 { 総資産の減 -141億円 } { 負債の減 +57億円 } その他有価証券評価差額金の減 -2億円
少数株主持分	44億円	41億円	-3億円	—————
純資産合計	504億円	412億円	-92億円	—————
負債純資産合計	1,268億円	1,201億円	-67億円	—————
有利子負債残高	242億円	404億円	+162億円	国内 +149億円 北米 +23億円 アジア -10億円
自己資本比率	36.3%	30.9%	-5.4P	—————
有利子負債依存度	19.1%	33.6%	+14.5P	—————
1株当り純資産	1,917円	1,545円	-372円	—————

# 2009年3月期 連結投資実績

(単位: 億円)



## 【09年3月期の主な内容】

	一般	特別
－ 用地取得 － ・ 完成車新工場用地		(22) 22
－ 完成車新工場関連 － ・ 用地造成等 ・ 新工場建設 (ENG)		(26) 14 12
－ 新会社 [YG テック] － ・ 工場建設等 (移管・投資設備含む)		(18) 18
－ 新拠点 － ・ 北米R&D (YOA) ・ インド新拠点 (4R、2R)		(19) 8 11
－ 体改・能拡 － ・ 完成車事業 (PRG導入等) ・ 部品事業 (2R塗装工場、PFT導入、ツーリング能拡) ・ 海外現法 (アラバマPFT・プレス導入等)		(76) 6 36 34
－ 新機種 － [金型・治具含む] ・ 国内 (完成車/部品) ・ 海外現法	(53) 41 12	
－ 合理化・更新等 － ・ 国内 (完成車/部品) ・ 海外現法	(20) 10 10	

[ 合計 ] 234 億円

73

161

# 2010年3月期 連結業績見通し

	2009年3月期 (実績)		2010年3月期 (計画)		前年度比 (増減率)
売上高	3,093億円		2,880億円		-213億円 (-6.9%)
完成車事業	1,302億円		1,640億円		+338億円 (+26.0%)
部品事業	1,791億円		1,240億円		-551億円 (-30.8%)
営業利益 (対売上高比率)	60.5億円 (2.0%)		43.0億円 (1.5%)		-17.5億円 (-28.9%)
経常利益 (対売上高比率)	56.2億円 (1.8%)		38.0億円 (1.3%)		-18.2億円 (-32.4%)
当期純利益 (対売上高比率)	3.9億円 (0.1%)		17.0億円 (0.6%)		+13.1億円 (+334.4%)
UYT減損前(前期) 純利益 (対売上高比率)	28.6億円 (0.9%)		17.0億円 (0.6%)		-11.6億円 (-40.6%)
為替レート (USドル)	上期 106円 下期 95円	通期 101円	上期 95円 下期 95円	通期 95円	6円 円高

	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期 (予定)	前年比 増減
中間配当金	15円	15円	12円	-3円
期末配当金	15円	15円	12円	-3円
年間配当金	30円	30円	24円	-6円
連結配当性向	9.8% ※1(17.3%)	184.0% ※2(25.2%)	33.9%	-150.1P (+8.7P)

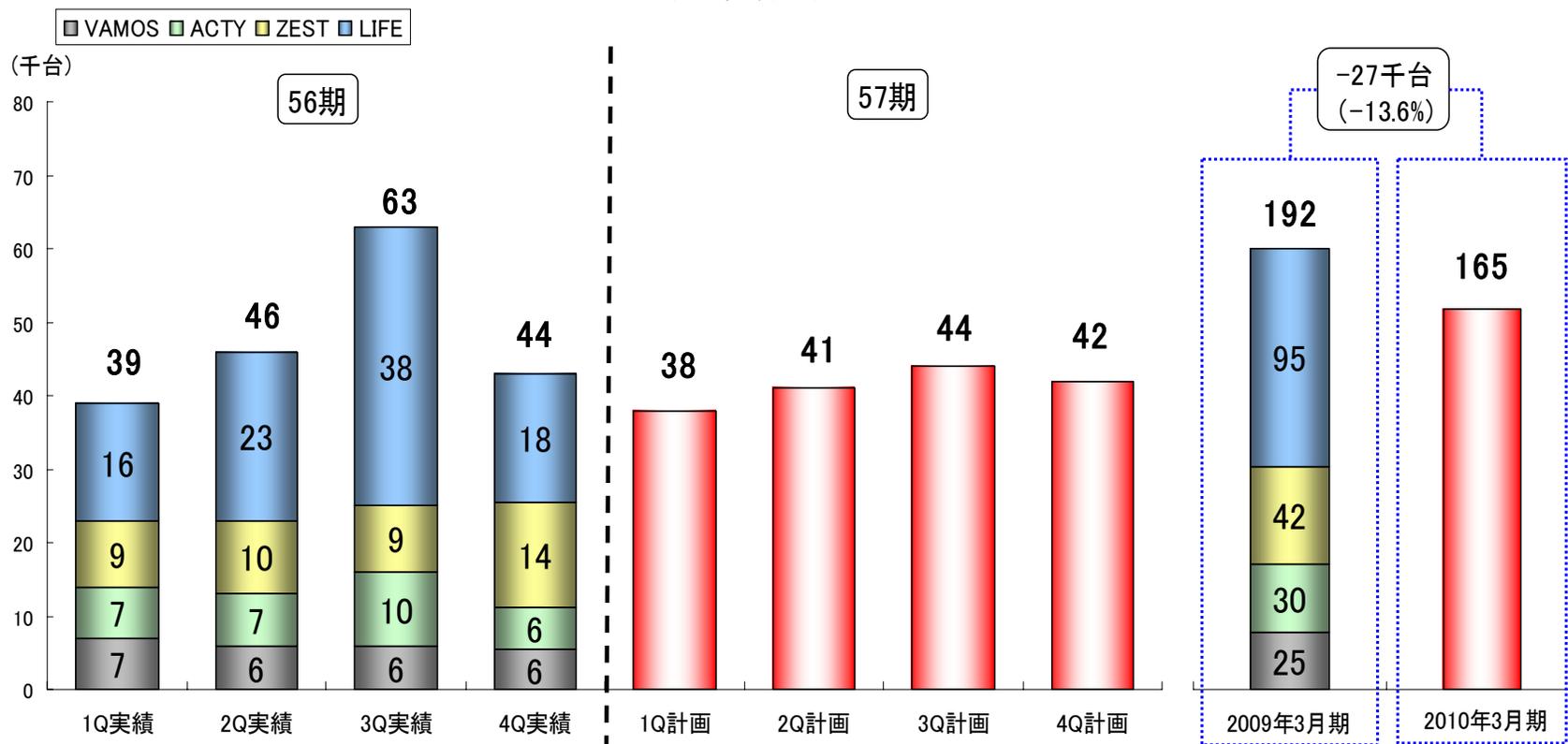
※1 ( )内は、親会社(ホンダ)株式売却益を除く数値。

※2 ( )内は、持分法適用関連会社(UYT)の減損処理を除く数値。

# 完成車事業 売上台数&売上高 見通し

	2009年3月期 (実績)	2010年3月期 (計画)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	192千台	165千台	- 27千台 (-13.6%)
売上高	1,302億円	1,640億円	+338億円 (+26.0%)

エンジン組立開始  
(09年5月～)

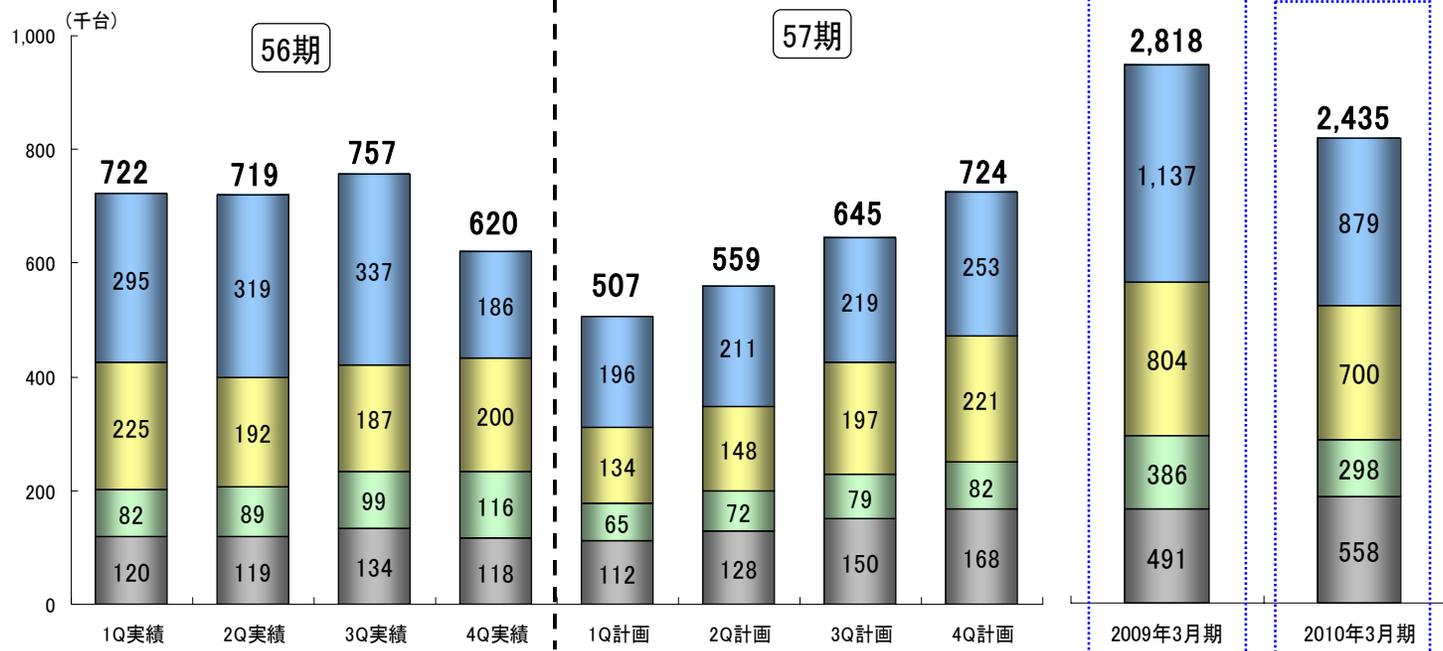


日産台数	657台	771台	905台	728台	635台	700台	700台	700台
休買日	0日	0日	6日	0日	0日	0日	0日	0日

# 部品事業(タンク) 売上台数&売上高 見通し

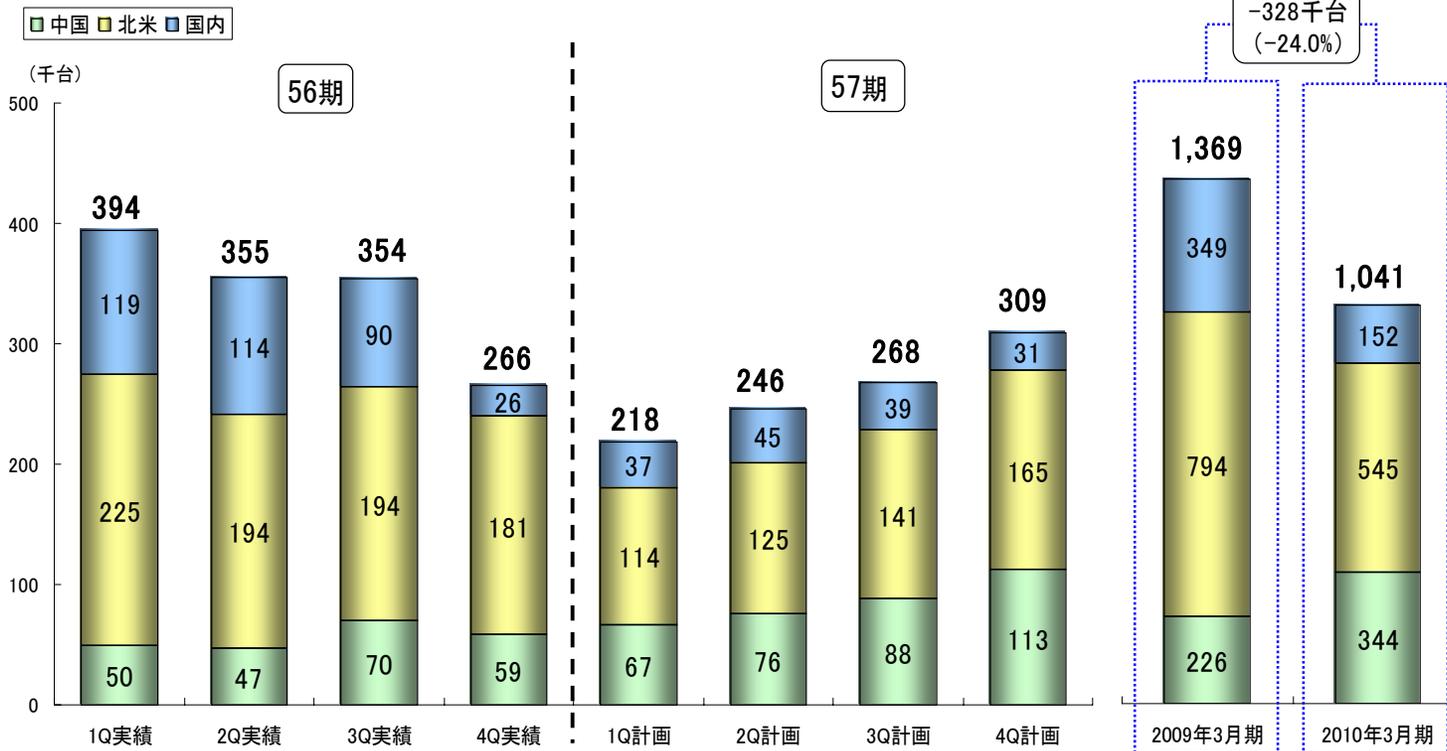
	2009年3月期 (実績)	2010年3月期 (計画)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	2,818千台	2,435千台	-383千台 (-13.6%)
国内	1,137千台	879千台	-258千台 (-22.7%)
北米	804千台	700千台	-104千台 (-13.0%)
タイ	386千台	298千台	-88千台 (-22.7%)
中国	491千台	558千台	+67千台 (+13.5%)
売上高	387億円	287億円	-100億円 (-25.7%)
内為替影響	—	-16億円	実質の売上減 -84億円

■中国 ■タイ ■北米 ■国内



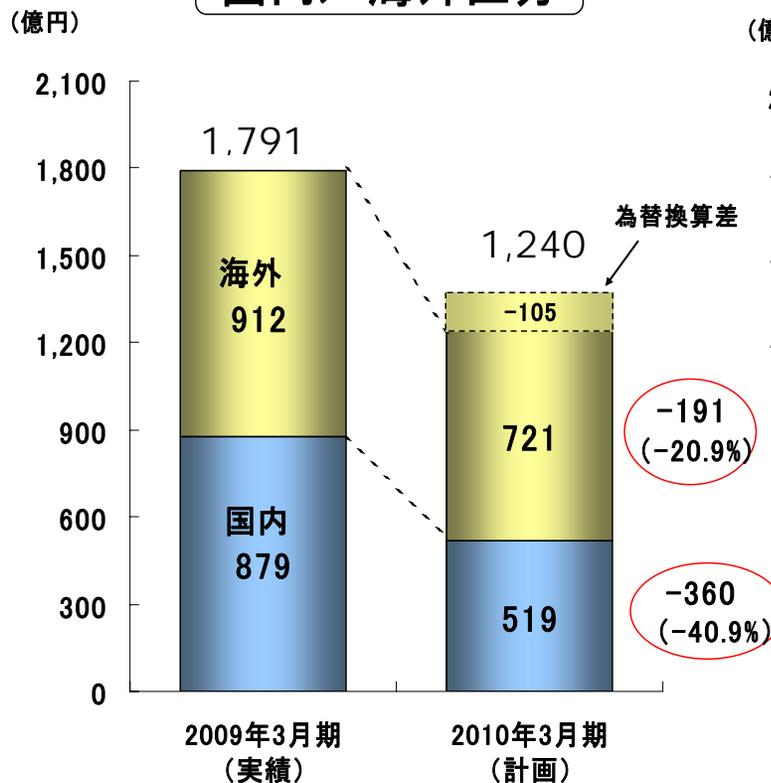
# 部品事業(サンルーフ) 売上台数&売上高 見通し

	2009年3月期 (実績)	2010年3月期 (計画)	前年度比 (増減率)
生産台数合計	1,369千台	1,041千台	-328千台 (-24.0%)
国内	349千台	152千台	-197千台 (-56.3%)
北米	794千台	545千台	-249千台 (-31.4%)
中国	226千台	344千台	+118千台 (+52.3%)
売上高	276億円	203億円	-73億円 (-26.4%)
内為替影響	—	-14億円	実質の売上減 -59億円

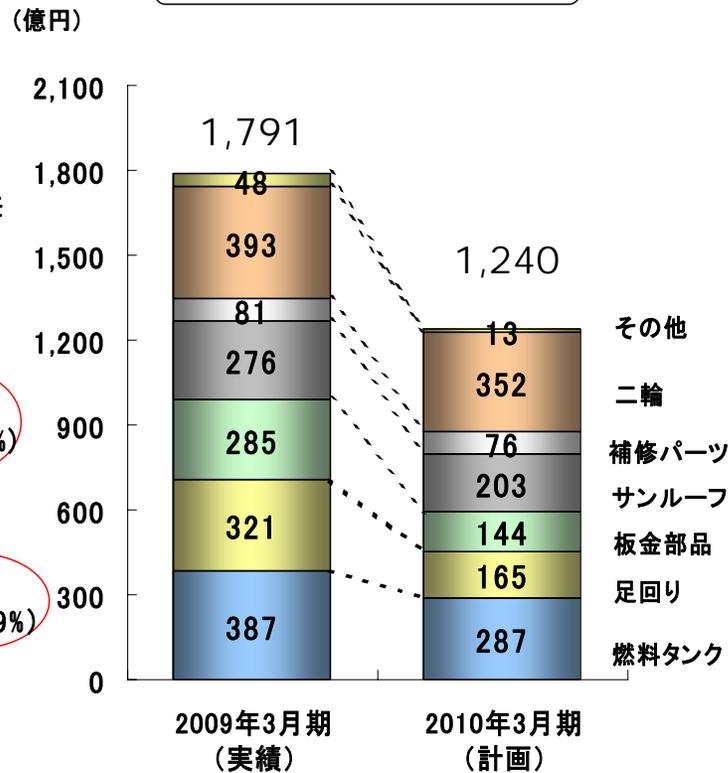


売上高	2009年3月期 (実績)	2010年3月期 (計画)	前年度比 (増減率)
売上高	1,791億円	1,240億円	-551億円 (-30.8%)

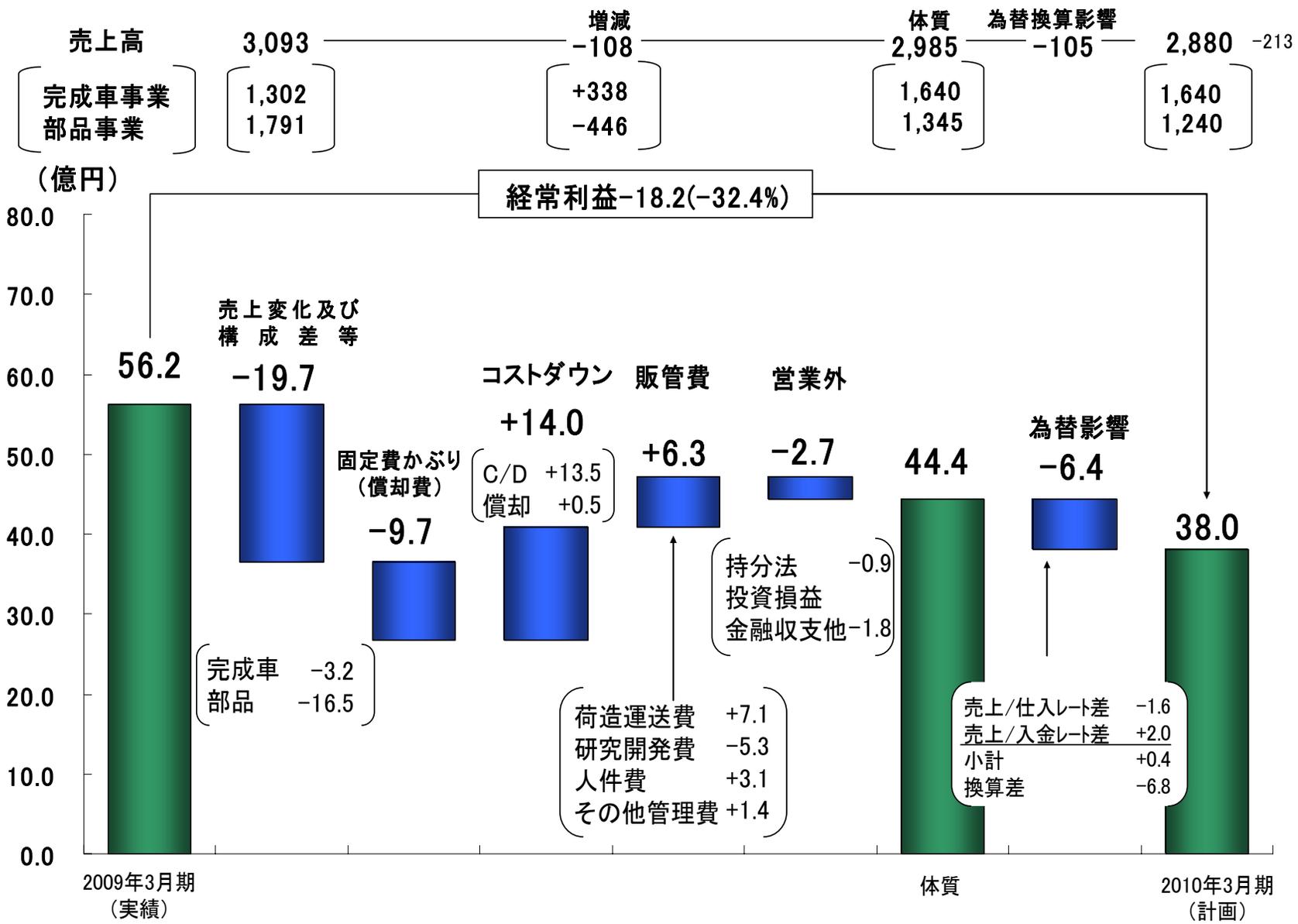
### 国内／海外区分



### 部品別区分

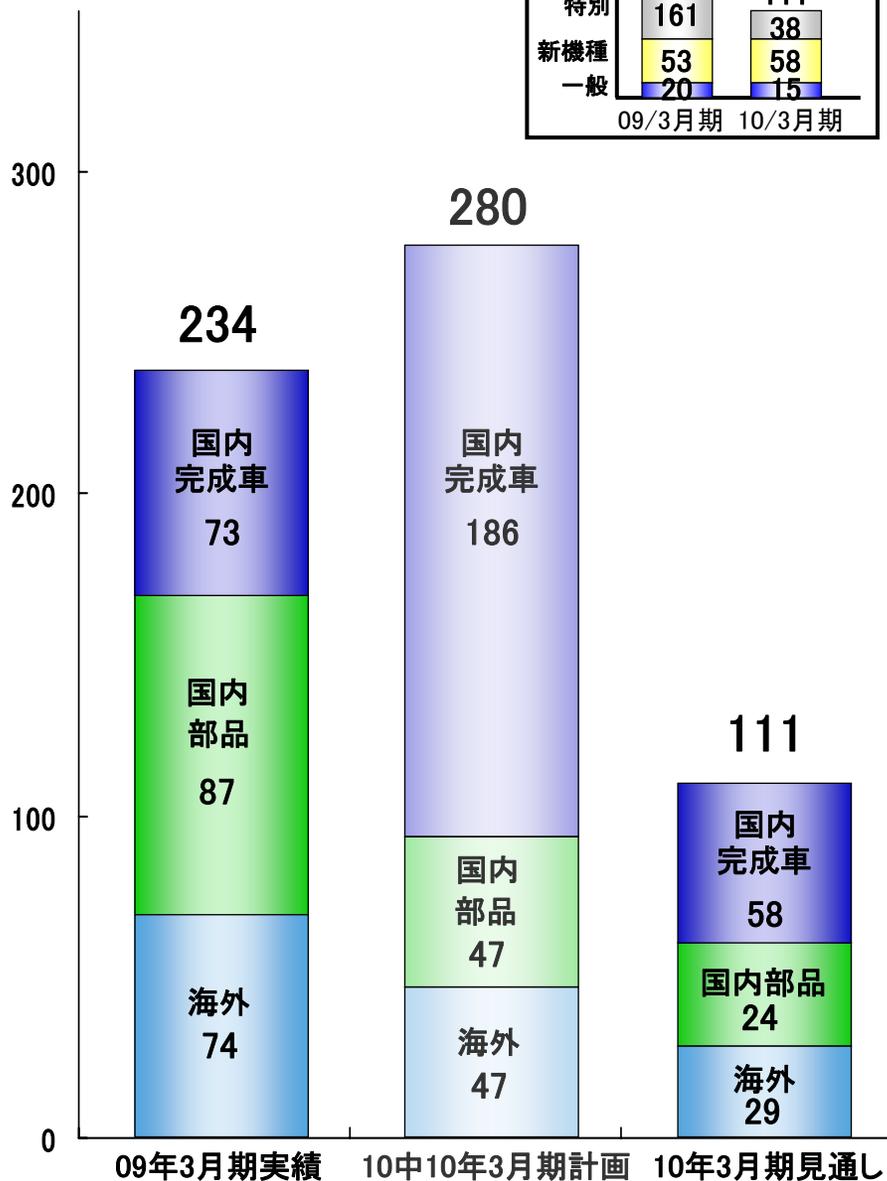
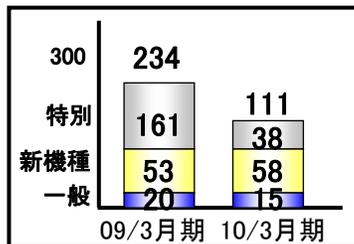


# 連結経常利益増減要因 前年度比



# 2010年度3月期 連結投資計画

(単位: 億円)



## 【10年3月期の主な内容】

	一般	特別
－ 用地取得 － ・ 完成車新工場用地		(8) 8
－ 完成車新工場関連 － ・ ENG工場設備		(8) 8
－ 新会社〔YG テック〕 － ・ 工場建設等(移管設備等)		(1) 1
－ 新拠点 － ・ インド新拠点 (4R、2R)		(2) 2
－ 体改・能拡 － ・ 完成車事業 ・ 部品事業(2R塗装工場、栃木研究所増設等) ・ 海外現法(中国S/R能拡等)		(19) 1 6 12
－ 新機種 －〔金型・治具含む〕 ・ 国内(完成車/部品) ・ 海外現法	(58) 49 9	
－ 合理化・更新等 － ・ 国内(完成車/部品) ・ 海外現法	(15) 8 7	

[ 合計 ] 111 億円

73

38

## 2. 第10次中期計画の進捗状況について

---

- ～1. 第10次中期の方向性
- ～2. 進捗状況
- ～3. 売上計画(目標)
- ～4. 経営指標

代表取締役社長 白石 基厚

---

## 2. 第10次中期計画の進捗状況について

---

- ～1. 第10次中期の方向性
  - ～2. 進捗状況
  - ～3. 売上計画(目標)
  - ～4. 経営指標
-

## ヤチヨのVision

お客様から期待され、期待に応える自立した企業をめざす

環境対応

価格競争力

軽量化、VOC・CO2削減  
コスト競争力

飛躍的競争力向上

## 中長期重点目標

- ① 製品の軽量化  
(VOC、CO2削減)
- ② 圧倒的コスト競争力づくり
- ③ QCDベスト工場

- ・機能部品トップランナー
- ・高効率、高品質の完成車工場(QCDベスト工場)

グローバルオペレーションの強化

・仕込みの中期  
・選択と集中

飛躍の期

第9次中期

第10次中期

第11次中期

**目 的**

『機能部品トップランナー』  
『高効率、高品質の完成車工場  
（QCDベスト工場）』  
に向けた仕込みを完了する。

**目 標**

1. 製品重量軽量化 仕込み完了
2. コストダウン 仕込み完了
3. 後処理 の大幅削減

**主要施策 1**

◇ **もの造り体質の  
再構築**

1. 工程内品質保証の確立
2. ラインの高機能汎用化
3. 現場力の強化

**主要施策 2**

◇ **研究開発力の強化**

1. 機能部品のトップランナー  
への仕込み完了
2. ツーリングの競争力強化

**主要施策 3**

◇ **グローバル  
オペレーションの進化**

1. マザー機能の明確化と強化
2. 地域統括機能の構築と  
地域自立化
3. グローバル調達強化

## 2. 第10次中期計画の進捗状況について

---

- ～1. 第10次中期の方向性
  - ～2. 進捗状況
  - ～3. 売上計画(目標)
  - ～4. 経営指標
-

# サンルーフ 競争力強化への取り組み



## 主要施策

◇ もの造り体質の再構築

◇ 研究開発力の強化

◇ グローバルオペレーションの進化

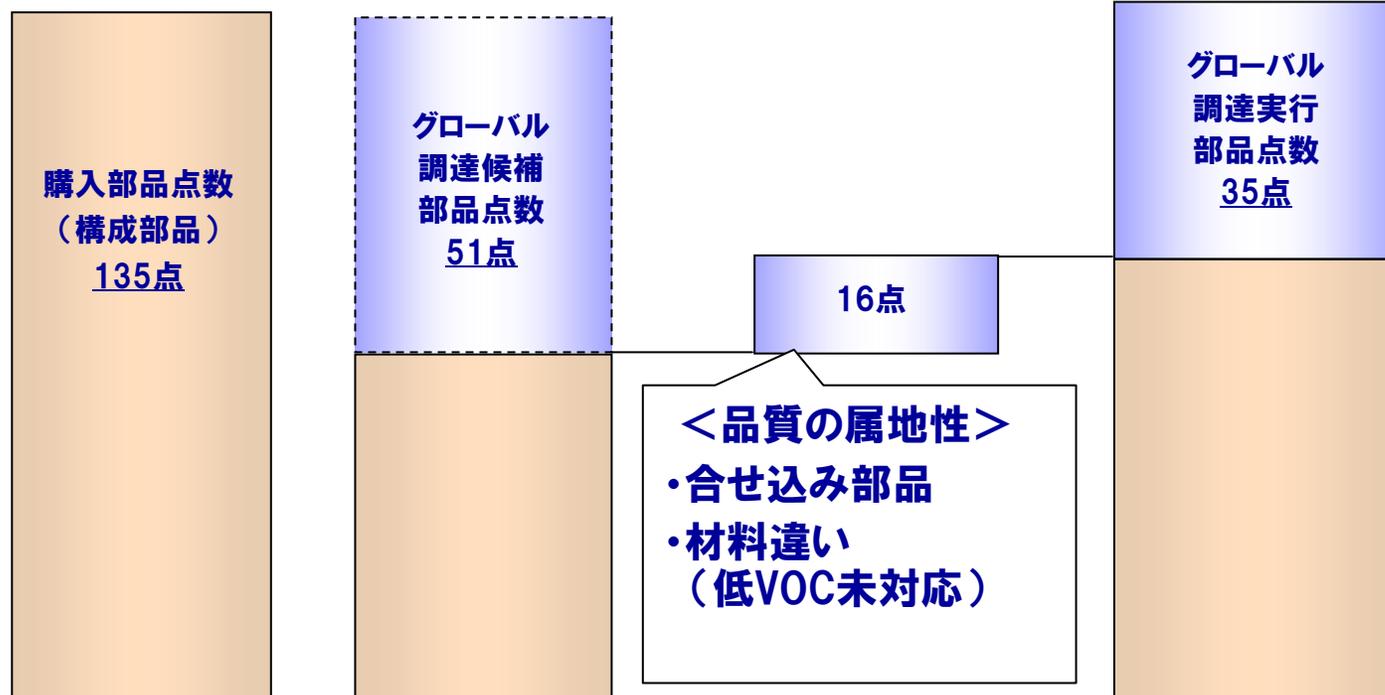
展開日程	9中		10中		11中	
	55期	56期	57期	58期	59期	60期 61期
目標				★11モデル	★13モデル	トッランナーの コスト、ウェイトを 実現
・高機能 汎用化ラ	モデルライン構築		ものづくり展開で推進			
・生産効率						
・部品内製 同期化						
・軽量化/コ						
・新商品/新						
・ツーリングの 競争力強						
・グローバル調達		1stステップ	2ndステップ		3rdステップ	
・製造ライン 水平展開		米州	中国			
・地域マザー体制 の構築	AYM: 北米サンルーフ事業統括 YZM: 中国サンルーフ事業統括					

### まとめ <コスト、ウェイト>

- ・ 11モデルの仕込み完了
- ・ 13モデルに向け、更なるVA施策仕込み開始

## 56期(サンルーフ既存部品の取組み)

08Mアコード



量産立上り

目論見

未実施

グローバル調達実施

<品質の属地性>

- ・合せ込み部品
- ・材料違い (低VOC未対応)

効果まとめ

部品点数: 35部品

原価率改善



# 燃料タンク 競争力強化への取り組み



## 主要施策

◇ もの造り体質の再構築

◇ 研究開発力の強化

◇ グローバル  
オペレーションの進化

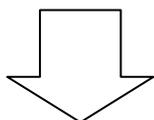
展開日程	9中		10中			11中	
	55期	56期	57期	58期	59期	60期	61期
目標				★11モデル		★13モデル	★13モデル
・ラインフレキ化	▼		▼				
・仕込重量							3rdステップ 新材料開発
・製品重量							▽
・稼働向上							▽
・品質保証							▽
・歩留り向上							▽
・新機構/新部品							▽
・部品自給化 (HMとの供創)							▽
・グローバルマザー 推進		柏原工場: 生産体質進化と水平展開及びグローバル支援					
・地域マザー機能 構築		USY: 北米 PFT事業統括 YZM: 中国 PFT事業統括 SYC: アジア PFT事業統括					
・汎用生産ライン の水平展開	▼		▼	▼	▼	▼	▼
			SYC 展開	USY 展開			
				YZM 展開			

### まとめ <コスト、ウェイト>

- ・ 11モデルの仕込み完了
- ・ 13モデルに向け、更なるVA施策仕込み開始

## 既存工場での達成状況

増量なく新しい時代に  
適合した工場が  
できるか



物造り体質の  
再構築

+

次世代に向けた  
変革への対応

### 攻めどころ

FF/MID分離

FF新工場  
(ライフ/ゼスト)

MID工場  
(アクティラック・バン)

生産システム進化

エンジン工場

完成車工場

内外作含めた  
工程系列の最適化

地球環境対応

### 達成状況

NET/LOSSの徹底追求

自工程完結、INライン保証

FFショートプロセス最適ライン

自動化(シーラー、検査)

MID最適ライン

現有設備活用

ランダム生産 → ロット生産化

組立の内製化

塑加工(ブロック、ヘッド)一貫生産/内製化

重要骨格部品 内製化と  
新しい溶接部品ラインシステム

小組 内製化

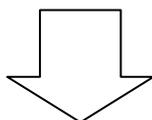
CO2、VOC低減

高次元排水処理システム導入

ソーラー 導入

## 既存工場での達成状況

増量なく新しい時代に  
適合した工場が  
できるか



物造り体質の  
再構築

+

次世代に向けた  
変革への対応

### 攻めどころ

FF/MID分離

FF新工場  
(ライフ/ゼスト)

MID工場  
(アクティトラック・バン)

生産システム進化

エンジン工場

完成車工場

内外作含めた  
工程系列の最適化

地球環境対応

### 達成状況

NET/LOSSの徹底追求

自工程完結、INライン保証

FFショートプロセス最適ライン

自動化(シーラー、検査)

MID最適ライン

現有設備活用

ランダム生産 → ロット生産化

**エンジン組立の内製化**

塑加工(ブロック、ヘッド)一貫生産/内製化

重要骨格部品 内製化と  
新しい溶接部品ラインシステム

小組 内製化

CO2、VOC低減

高次元排水処理システム導入

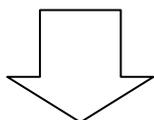
ソーラー 導入

エンジン組立工場竣工：2009年2月  
2009年5月第2週に立上り  
5月末にはフル生産へ



## 既存工場での達成状況

増量なく新しい時代に  
適合した工場が  
できるか



物造り体質の  
再構築

+

次世代に向けた  
変革への対応

### 攻めどころ

FF/MID分離

FF新工場  
(ライフ/ゼスト)

MID工場  
(アクティトラック・バン)

生産システム進化

エンジン工場

完成車工場

内外作含めた  
工程系列の最適化

地球環境対応

### 達成状況

NET/LOSSの徹底追求

自工程完結、INライン保証

FFショートプロセス最適ライン

自動化(シーラー、検査)

MID最適ライン

現有設備活用

ランダム生産 → ロット生産化

エンジン組立の内製化

塑加工(ブロック、ヘッド)一貫生産/内製化

**重要骨格部品 内製化と  
新しい溶接部品ラインシステム**

小組 内製化

CO2、VOC低減

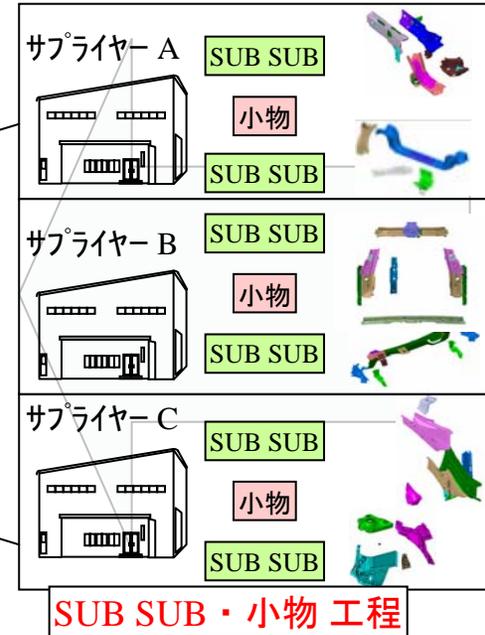
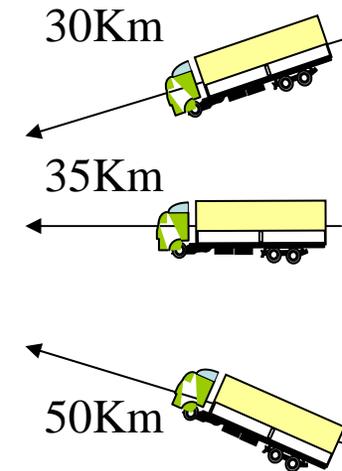
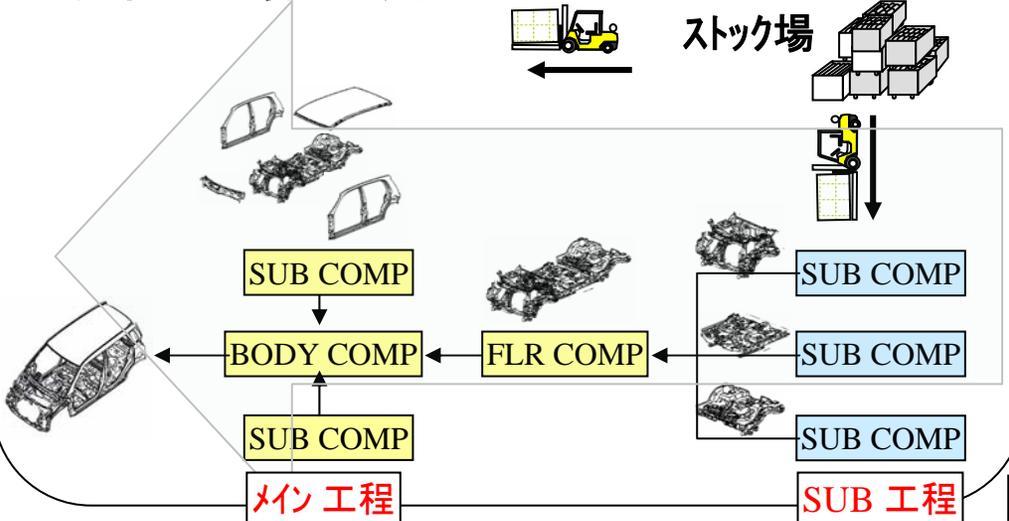
高次元排水処理システム導入

ソーラー 導入

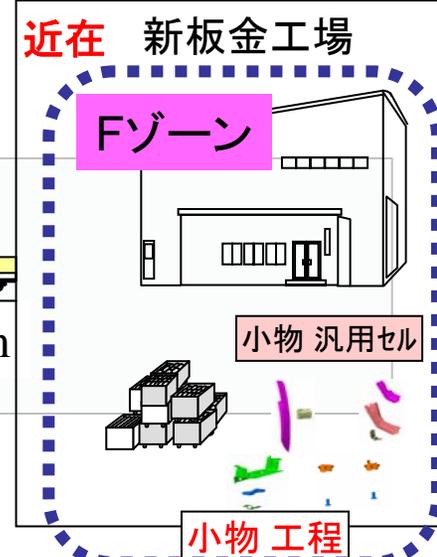
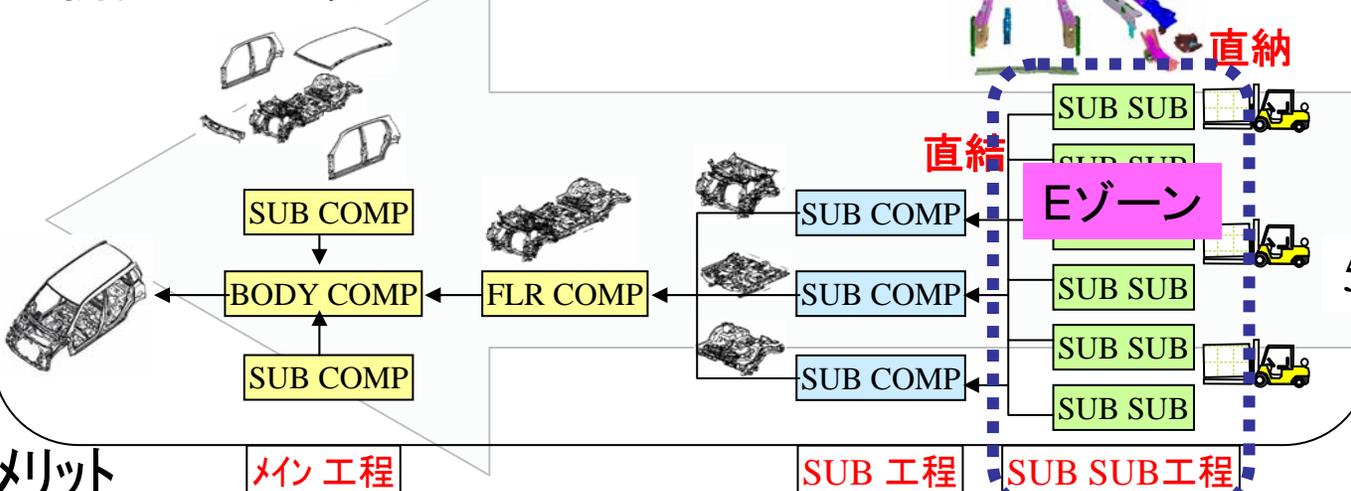
# 重要骨格部品 内製化と新しい溶接部品ラインシステム



## 既存工場の流れ



## 新完成工場



メリット

- ①品質軸の一本化
- ②人効率の向上
- ③物流費削減
- ④物流効率向上によるCO2削減

四日市製作所から車で約10分の距離に  
株式会社ワイジーテックを設立



2009年1月 溶接稼働開始



2009年4月 プレス稼働開始

# 四日市製作所 新工場建設 進捗状況

## 新工場建設予定地

土地取得が完了。1ステップ用地は造成工事が完了。

2ステップ用地は開発許可が下り、5月に造成工事をスタート。

新完成車(FF)工場、エンジン塑形加工工場の稼働開始は当初計画に対し1年強延期。

既存完成車工場

完成車工場

エンジン工場

新完成車(FF)工場

塑形加工

組立工場  
(竣工)

塗装工場

プレス工場  
(既存)

厚生棟  
(既存)

1ステップ

2ステップ

組立工場

溶接工場

完成車検査

モータープール

調整池

調整池



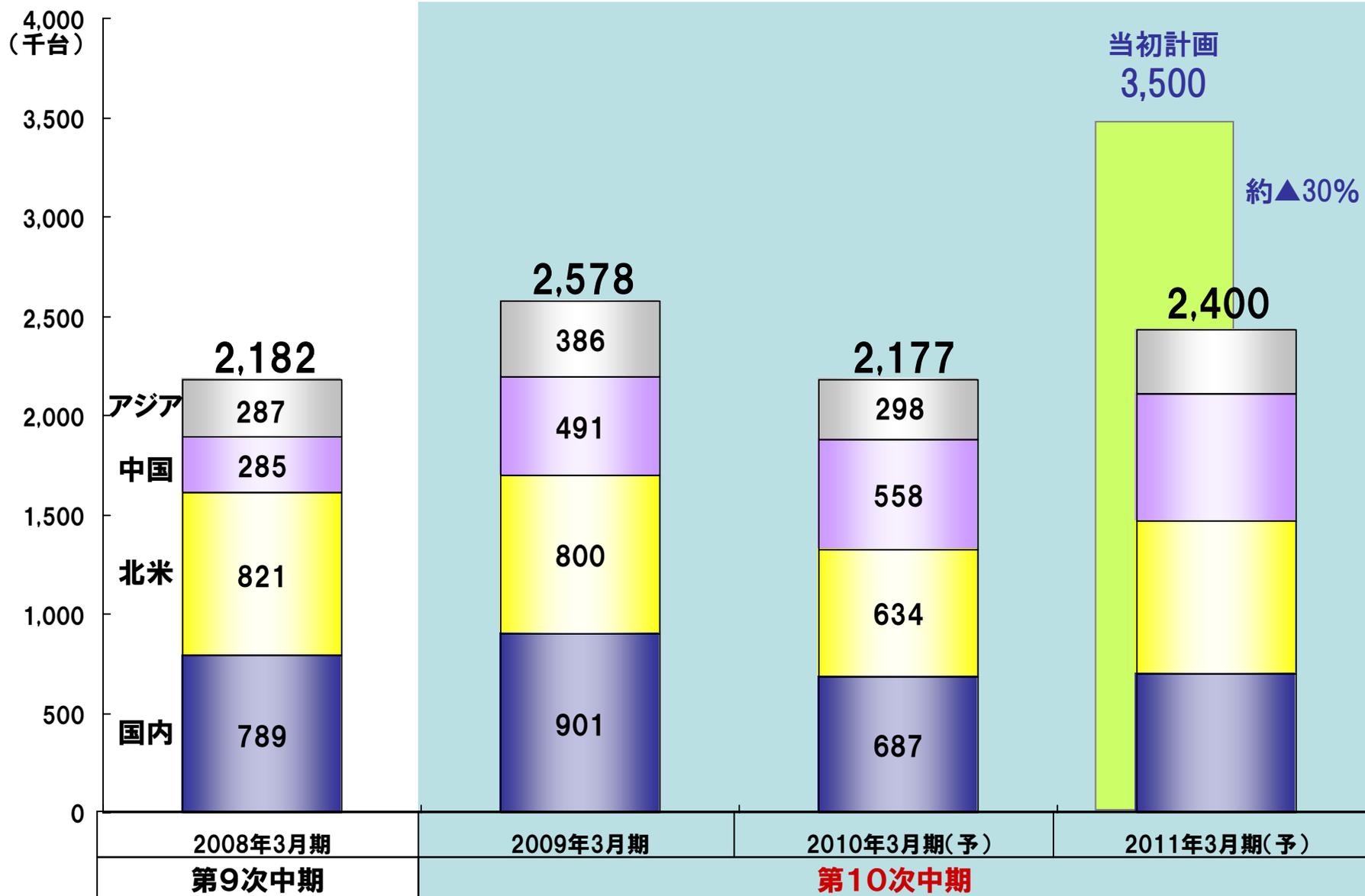
造成が完了した1ステップ用地と竣工したエンジン組立工場

## 2. 第10次中期計画の進捗状況について

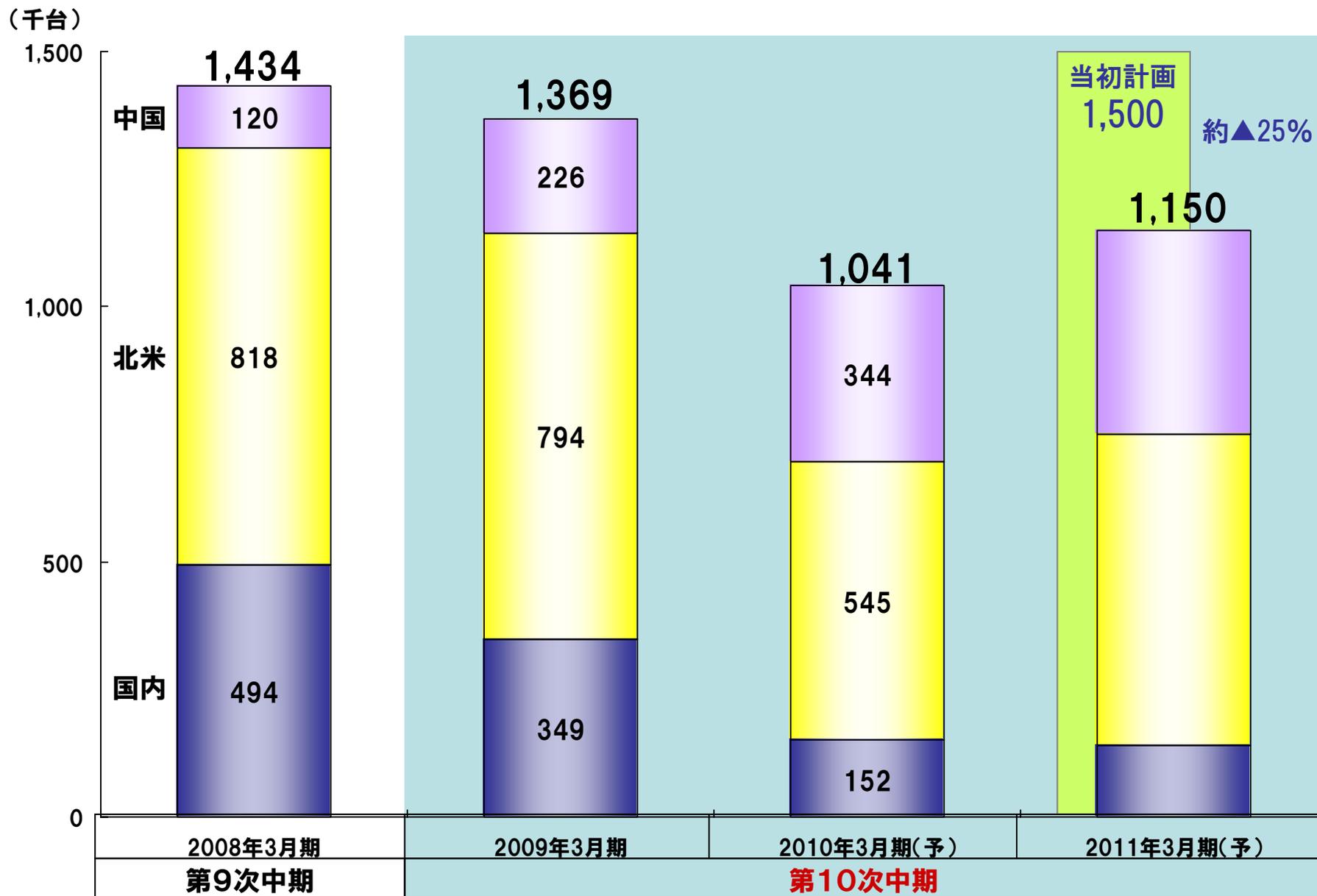
---

- ～1. 第10次中期の方向性
  - ～2. 進捗状況
  - ～3. 売上計画(目標)
  - ～4. 経営指標
-

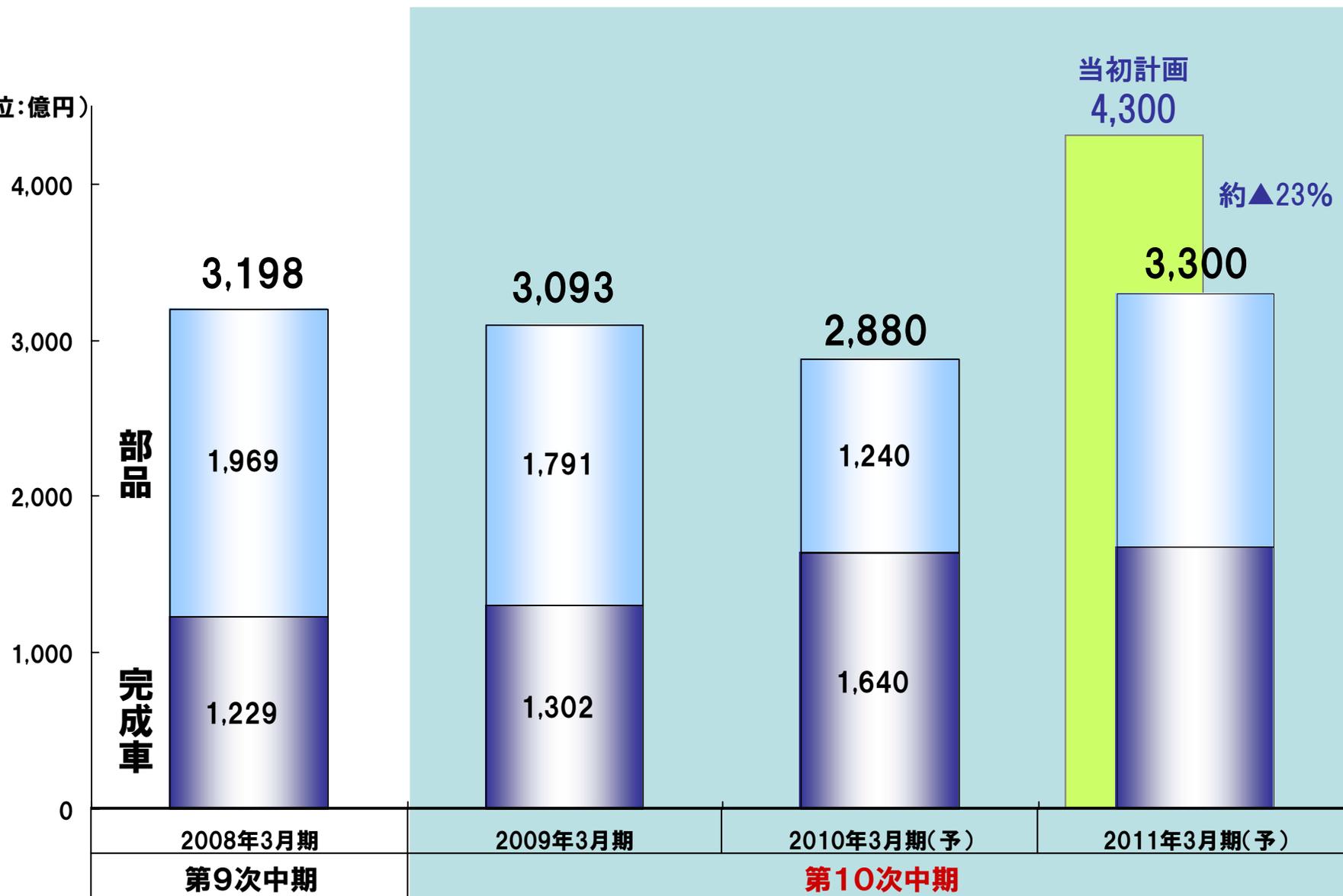
# 主要製品売上台数(樹脂製燃料タンク)



# 主要製品売上台数(サンプルフ)



(単位:億円)



## 2. 第10次中期計画の進捗状況について

---

- ～1. 第10次中期の方向性
  - ～2. 進捗状況
  - ～3. 売上計画(目標)
  - ～4. 経営指標
-

## 体質指標 I

(単位:億円)	第9次中期末実績	当初計画	見直し後
		第10次中期末	第10次中期末
連結売上高	3,220	4,300	3,300
連結経常利益率	2.5 %	3.0 %以上	3.0 %以上
株主資本利益率(ROE)	9.6 %	10 %以上	10 %以上
連結配当性向	17.2 %	15 %	15 %
有利子負債依存度	22.7 %	35 %	30 %

## 体質指標 II

(単位:億円)	第9次中期実績	当初計画	見直し後
		第10次中期	第10次中期
連結設備投資額 中期累計	410	800	450
連結減価償却費 中期累計 (期末)	255 (95)	420 (180)	360 (115)
連結研究開発費 中期累計 (期末)	45 (17)	90 (35)	85 (35)

# 第10次中期 投資計画の変化

(単位:億円)

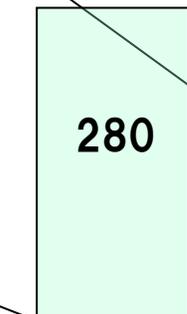
## 900億円

## 800億円 (目標)

- <主な差異内容>
- ・完成車新工場延期 : ▲335
  - ・国内新機種(合理化): ▲35
  - ・北米(能拡・新機種): ▲50
  - ・アジア四輪 : ▲10
  - ・二輪事業 : ▲20
- (内、為替差異 : 約26億)

58期

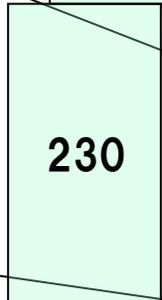
320



280

57期

280



230

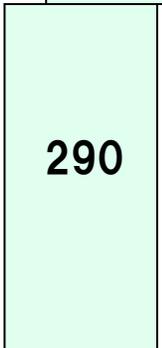
## 450億円 (目標)



105

56期

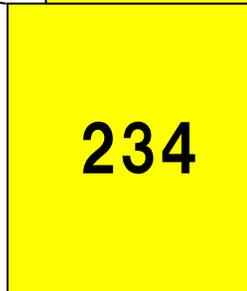
300



290



111



234

当初計画

目標値

見直し後

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下のようなものがあります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害